

令和3年度 地域連携事業報告書

地域教育実践研究センター



学校法人福原学園
九州女子大学・九州女子短期大学

目 次

第1章 大学における地域連携について

I. 大学が地域連携する意味	2
II. 組織と業務内容	3
1. 組織	
2. 業務内容	
3. 外部評価	
III. SDGsの推進について	4
1. SDGsとは	
2. 本学の取り組み	
IV. 令和3年度の地域連携事業実績一覧	5

第2章 令和3年度の地域連携事業

I. 芦屋町との包括的連携事業	7
1. スーパーキャラバン隊による模擬保育	
2. 地域交流サロンにおける公開講座	
3. 芦屋町祖父母学級における公開講座	
II. 水巻町との包括的連携事業	10
1. 避難所レイアウト作成事業	
2. 防災パネル作成事業	
III. 北九州市との連携事業	14
1. 放課後児童クラブの指導員を対象とした公開講座	
IV. 折尾二三会との包括的連携事業	16
1. 九女わくわくパークの企画運営	
V. 不二製油株式会社との包括的連携事業	18
1. 大豆加工食品を活用した製品開発事業	
VI. 株式会社えん・コミュニケーションズとの包括的連携事業	20
1. 鯖および明太子を活用した製品開発事業	
VII. インターンシップ推進事業	22
1. インターンシップの種類	
2. インターンシップ参加スケジュール	
3. 各インターンシップの実績	
VIII. 学生ボランティア事業	26
IX. その他の地域連携諸事業	27
1. 北九州市民カレッジにおける公開講座	
2. 若者によるインターネットTV座談会「そうだったのか町内会」の開催	
3. 消費者フェスティバル2021×SDGsの開催	
4. 「ジビエ料理プロジェクト」の取り組み	
5. 近隣他大学との連携	
X. 研究活動	28
1. 学会報告：地域活性学会「第13回研究大会」	

第3章 学外実習・介護等体験および教員免許状更新講習等

I. 令和3年度学外実習・介護等体験の実績	29
II. 教員免許状更新講習の受講者推移(平成21年度～令和3年度)	29

参考資料

I. 地域教育実践研究センターの各種委員会構成員	30
II. 地域教育実践研究センターの運営委員会等年間実績	30
III. 地域教育実践研究センター外部評価委員会報告	31
IV. 協定先一覧	32
V. 地域教育事業一覧(平成27年度～令和2年度)	32
VI. 講師派遣実績一覧	33
VII. 行政の審議会等委員委嘱実績一覧	34
VIII. 地域活性学会「第13回研究発表」発表要旨	35

第1章 大学における地域連携について

I. 大学が地域連携する意味

本学は、「地域に根差した実践教育を展開する大学」として、これまで取り組んできた教育・研究を地域社会の発展に資するため、平成27年6月1日に地域教育実践研究センターを設置した。

地域教育実践研究センターでは、学部・学科、および教員個々が実施してきた地域との関わりについての実態調査や地域が抱える課題や要望等を把握のうえ、「学生の質保証の強化」、「大学の教育・研究機能の活用」および「地域社会との共生」の3本柱を軸として、地域連携事業の在り方を検討し、本学の地域貢献(型)による大学創りに取り組む。

学生の質保証の強化

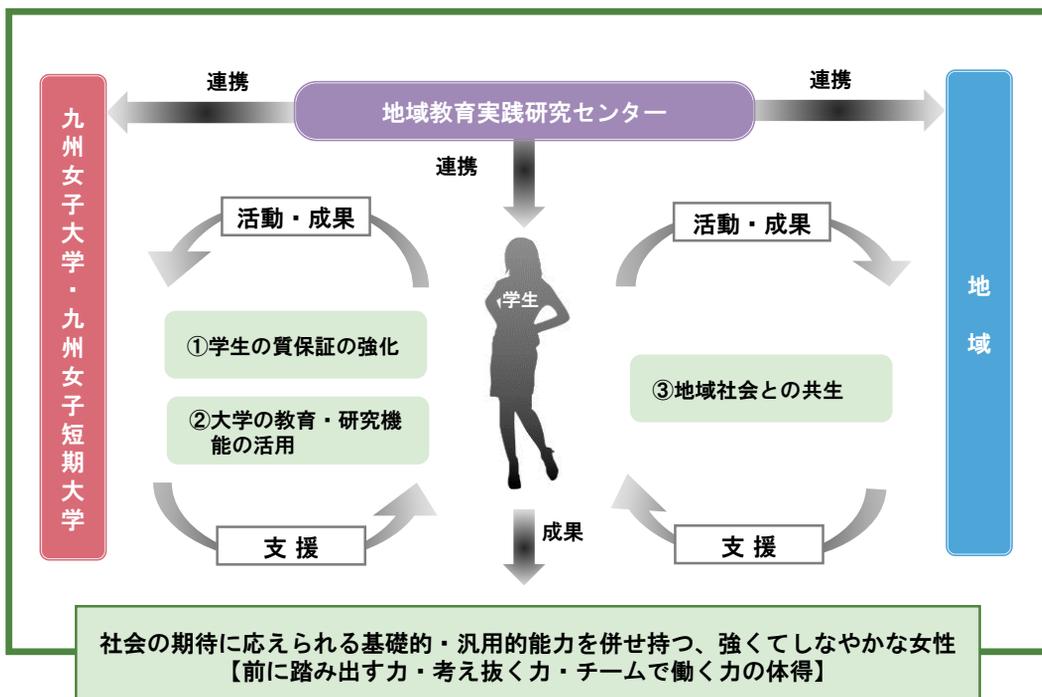
- ・地域課題(ニーズ)と大学資源(シーズ)を把握し、地域の課題を解決するため、学生ボランティアの育成を実践するとともに、学生の実学的教育を実践する。また、学生自身の研究テーマを設定して臨地研究を行うことにより、学生の研究論文に繋げていく。

大学の教育・研究機能の活用

- ・地域課題の現状調査を行い、データを分析し、これに対応する教育プログラムを作成する。また、教員による地域への出前型講座等を学生ボランティアと実践し、事業評価を行う。将来的には、「地(知)の拠点」として地域(自治体・企業等)と地域課題を解決する補助事業や共同研究の実施も視野に入れる。

地域社会との共生

- ・本学と自治体が組織的・実質的に協力し、地域課題と大学資源のマッチングにより、地域と大学が必要と考える取り組みを実践することで、地域との共生を実現させる。



II. 組織と業務内容

1. 組織

地域教育実践研究センターの適正な管理運営を図るため、「地域教育実践研究センター運営委員会」(以下、「運営委員会」)を設置している。運営委員会は、センター所長、センター副所長、教務部長、学生部長、事務局長、大学・短大の各学部等から学長が推薦する教育職員、その他学長が必要と認めた職員で組織している。組織的に事業に取り組むため、事業案件を運営委員会で審議・決定し、本学の評議会に審議事項を上申している。また、事務を所管するのは、センター所長、センター副所長、事務職員が行う。

2. 業務内容

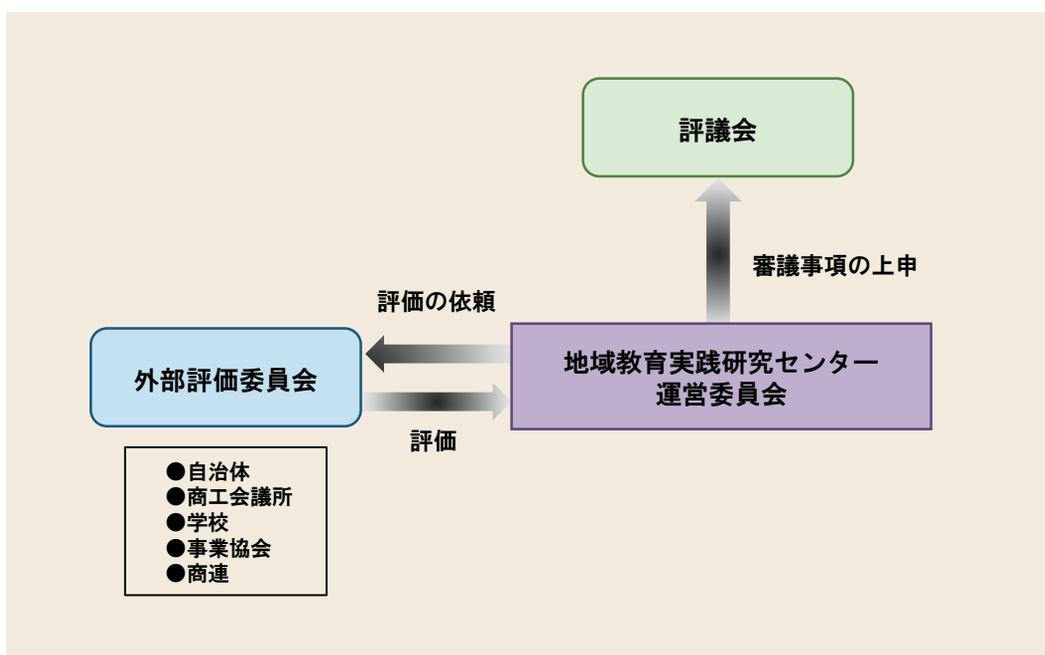
地域教育実践研究センターは、以下の業務を実践・研究するため、学科、個人単位で実施していた地域連携事業の一元化を図るとともに、外部からの依頼に関する窓口としての機能も有する。また、地域連携事業については、運営委員会の検討を踏まえ、各学部等から選出された運営委員により、学科会議等において検討内容の共有に努めることとしている。

地域教育実践研究センターの業務内容

- ①地域教育実践研究活動に関する学内情報の一元管理に関すること
- ②地域教育実践研究活動の学内外への広報ならびに情報の提供に関すること
- ③地域教育実践研究活動に関する対外的な窓口機能に関すること
- ④地域教育実践研究活動の教育実践プログラムおよび研究プロジェクトに関すること
- ⑤地域教育実践研究活動に関する連絡調整に関すること
- ⑥学校インターンシップおよび学校ボランティアに関すること
- ⑦学外実習および介護等体験に関すること
- ⑧教員免許状更新講習に関すること
- ⑨その他地域教育実践研究活動に関すること

3. 外部評価

地域教育実践研究センターの取り組みについて、学外有識者による評価を行うことで自己点検・評価活動に反映させ、客観性・公平性を担保するため、外部評価機関として「地域教育実践研究センター外部評価委員会」(以下、「外部評価委員会」)を設置している(P30参照)。



Ⅲ. SDGsの推進について

1. SDGsとは

SDGsとは、2015年の国連サミットで採択された、貧困や不平等、気候変動等の様々な社会課題や環境問題を根本的に解決し、より良い生活を送ることができる世界を目指す、世界共通の持続可能な開発目標である。SDGsは、17のゴールと169のターゲットから構成され、2016年から2030年の間、世界中の国々が目標達成に向け取り組んでいる。

本学が位置する北九州市は、内閣府から、「SDGs未来都市」(全国29自治体)、および「自治体SDGsモデル事業」(全国10事業)等に選定されていることから、SDGsを踏まえた取り組みを積極的に推進している。

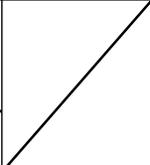


2. 本学の取り組み

本学は、地域に根差した実践教育を展開する大学として、大学の持つ教育・研究を地域へ還元し、一人でも多くの人々の生活に反映することでSDGsへ繋げる。自治体および企業等との連携事業を通じて、教育、地域課題の解決、栄養・健康に関するSDGsに取り組み、魅力あるまちづくりへ貢献する。



IV. 令和3年度の地域連携事業実績一覧

	事業	概要	SDGs
I	芦屋町との包括的連携事業	<p>1. スーパーキャラバン隊による模擬保育 芦屋町の保育所および幼稚園において、子ども健康学科の学生が実践型教育、および保育支援として模擬保育を実施している。令和3年度に関しては、新型コロナウイルス感染症の影響により、派遣を中止した。</p> <p>2. 地域交流サロンにおける公開講座 芦屋町の地域交流の促進を図り、高齢者に学び直しの機会を提供するため、地域交流サロンにおいて本学教員による公開講座を実施している。令和3年度に関しては、新型コロナウイルス感染症の影響により派遣を中止した。</p> <p>3. 芦屋町祖父母学級における公開講座 芦屋町の高齢者が充実したセカンドライフを歩むきっかけづくり等のため、昨年度に引き続き、各小学校区の祖父母学級生を対象に本学教員(書道担当)による公開講座を実施した。 ■担当教員：古木誠彦 ①中央公民館 ②山鹿公民館 ③芦屋東公民館</p>	   
II	水巻町との包括的連携事業	<p>1. 避難所レイアウト作成事業 災害発生時における避難者の受け入れ体制を町として確立するため、人間生活学科のカリキュラムにおいて指定避難所の水巻中央公民館のレイアウト、また水巻町在住の町民に向けた防災周知補助ツールとして防災パネルを作成した。</p>	   
III	北九州市との連携事業	<p>1. 放課後児童クラブの指導員を対象とした公開講座 本学と北九州市(子ども家庭局)で放課後児童クラブの振興を図るため、昨年度に引き続き、本学教員によるクラブ指導員を対象とした公開講座(テーマ: プレイフル・ラーニングの視点から子どもを「支える」を考える-「本気で遊ぶ、本気で学ぶ」の可能性-)の実施を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により開催を中止した。</p>	
IV	折尾二三会との包括的連携事業	<p>1. 九女わくわくパークの企画運営 大学2年生の科目であるスキルアップ講座P(なでしこ I)において、学生が主体となり、児童を対象に授業で学習した内容(伝統文化「冠婚葬祭」に関するマナーやしきたり)を遊びや体験を通じて伝えるため、企画内容について折尾二三会と連携し、九女わくわくパークを開催した。 ●参加者数: 30名 (折尾西小2名/医生ヶ丘小8名/芦屋東小1名/光貞小1名/頃末小5名/浅川小1名/未就学児4名)</p>	
V	不二製油株式会社との包括的連携事業	<p>1. 大豆加工食品を活用した製品開発事業 不二製油株式会社と連携し、栄養学科の学生が、地域の方の体づくりや健康促進を目的に大豆加工食品の試作品を開発した。</p>	
VI	株式会社えん・コミュニケーションズとの包括的連携事業	<p>1. 鯖および明太子を活用した製品開発事業 栄養学科の学生が、株式会社えん・コミュニケーションズが主力商品としている鯖や明太子を活用し、食品ロスを目的に新商品の試作品を開発した。</p>	
VII	インターンシップ推進事業	<p>1. 文系インターンシップ 北九州市内の学生に対して、職業意識の醸成や勉強意欲の向上、および市内企業への就職促進を図るため、市内の大学、短期大学、企業、北九州商工会議所が連携・協力し、文系学生を対象に就労体験の場を提供する事業である。 ●派遣学生数: 【夏季】延べ9人 / 【春季】延べ15人</p>	

第1章 大学における地域連携について

事業	概要
VII インターンシップ推進事業	<p>2. 課題解決型インターンシップ 北九州商工会議所が実施主体となり、北九州市内の学生に社会的基礎力を身につけさせるため、地域産業や企業等の課題を題材とした課題解決型インターンシップ事業である。 ●派遣学生数：3人</p> <p>3. 九州インターンシップ推進協議会 通常型インターンシップ 九州全体を見据えたインターンシップの推進と次代を担う若手の人材を育成するため、九州経済産業局や地元経済界、主要大学による産学官が協力して実施する事業である。 ●派遣学生数：【夏季】0人／【春季】0人</p> <p>4. 山口県インターンシップ推進協議会インターンシップ 山口県の経済・社会の活性化に貢献するため、県内の高等教育機関等、事業所、経済団体、行政機関が相互に連携・協力し、企業等へのインターンシップを通じて、高い職業意識の育成を推進する事業である。 ●派遣学生数：【夏季】1人／【春季】0人</p> <p>5. 北九州市インターンシップ 職業意識の向上、人材育成、および市政に対する理解を深めるため、市と協定を締結した教育機関の学生を対象とした市役所の公務に関する職業体験事業である。 ●派遣学生数：1人</p>
IX 学生ボランティア事業	<p>本学は、幼児教育者や学校教員等を目指す学生に現場経験を積ませるため、グリーンティーチャー等として、幼稚園・保育所、小学校、特別支援学校等に数多くの学生を派遣している。また、ボランティアとして、病院施設、図書館等にも学生を派遣している。令和3年度は新型コロナウイルスの影響により一部派遣を中止した。</p>
X その他の地域連携諸事業	<p>1. 北九州市民カレッジにおける公開講座 北九州市民カレッジにおいて、本学教員による「コロナ禍下での暮らし方」をテーマとした全6回の大学連携リレー講座における講座を開講した。</p> <p>2. 若者によるインターネットTV座談会「そうだったのか町内会」 自治会および町内会役員の高齢化、加入世帯の減少等の課題解決を目的とした若い世代が町内会と繋がるきっかけを探る本事業において、北九州市立大学の学生や社会人とともに、人間発達学科人間基礎学専攻の3年生2名が参加し、本学教員がファシリテーターとして進行役を務めた。</p> <p>3. 消費者フェスティバルの開催 消費者フェスティバルにおいて、人間生活学科の3年生および4年生15名が「まなびの」協力のもと、11月13日にイオンモール八幡東にて、消費者フェスティバルを開催し、子どもから大人まで楽しみながら学べるイベントの考案、パネル・PP・リーフレットの作成、当日会場での説明等を行った。</p> <p>4. 「ジビエ料理プロジェクト」の取り組み 栄養学科の学生が猪肉のカレー、シカ肉のウインナー、から揚げ等複数の料理を試作し、試食会を開催した。猪肉のカレーとシカ肉のウインナーを使用したホットドッグをギラヴァンツ北九州の試合日に合わせてミクニワールドスタジアムで販売した。</p> <p>5. 近隣他大学との連携 北九州市内の大学等(本学、九州共立大学、北九州市立大学、九州国際大学、西南女学院大学等)によるキャリア連携会議が、本年度新たに設置された。本会議(WEB開催)において、定期的に新型コロナウイルス感染症に対する各大学の就職活動に関する対応、授業対応、企業への対応、インターンシップの対応、および就職内定状況等について情報交換した。</p>
XI 研究活動	<p>1. 学会報告：地域活性学会「第13回研究大会」 本学の地域教育実践研究活動をさらに発展させるため、他大学等の地域連携事業に関する研究や事例の情報等を得ることを目的に、平成28年度から「地域活性学会」の団体会員に大学として入会している。本学会の第13回研究大会が開催され、令和2年度に実施した水巻町との連携事業「避難所レイアウト作成」の事例を発表した。</p>

第2章 令和3年度の地域連携事業

I. 芦屋町との包括的連携事業

平成28年3月29日、実践教育の場で社会の期待に応えられる学生を育成するため、芦屋町と包括的地域連携に関する協定を締結した。芦屋町と協定を締結することで、双方の持つ資源を結集し、行政や地域が抱える課題の解決、および社会性や実践力を身につけた学生の育成等、双方のメリットを効果的かつ最大限に活かすとともに、連携事業を推進する。

令和3年度は、スーパーキャラバン隊による模擬保育と地域交流サロンにおける公開講座は新型コロナウイルス感染症の影響により開催を中止したが、芦屋町祖父母学級における公開講座においては通常通り実施した。

1. スーパーキャラバン隊による模擬保育

(1) 概要・関連SDGs

キャラバン隊は、九州女子短期大学子ども健康学科の実践型教育として、幼稚園・保育所・施設・学校等において、模擬保育・模擬授業を展開する学生主体の活動である。この活動を通じて、学生の「創造性」「意欲」「研究心」「人間関係力」「問題解決能力」等、総合的な「人間力」の育成を目的としている。キャラバン隊には、原則子ども健康学科の1年生全員が所属し、専門性と人間性を身につけるために必要なことは何かを考察している。また、希望する学生については、「スーパーキャラバン隊」として他の学生の模範となり、中心的に活動に取り組んでいる。令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により活動を中止した。



(2) 過去の活動の様子



2. 地域交流サロンにおける公開講座

(1) 概要・関連SDGs

地域交流サロンは、芦屋町の高齢者が身近な場所に集い、体操や趣味、食事、おしゃべり等を通じて、生きがい作りや介護予防のため運営している。そのサロンの高齢者を対象に学び直しの機会を提供するため、本学教員による公開講座を実施している。令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により開催を中止した。



(2) 過去の活動の様子



第2章 令和3年度の地域連携事業

3. 芦屋町祖父母学級における公開講座

(1) 概要・関連SDGs

芦屋町祖父母学級は、芦屋小学校・芦屋東小学校・山鹿小学校の各校区で活動する大人向けの公民館講座の一つであり、豊富な知識と経験を持つ者同士が、楽しく学び、より深い社会性を身につけることを目的としている。その祖父母学級の高齢者を対象に学び直しの機会を提供するため、昨年度に引き続き、3ヶ所の公民館において本学教員による公開講座を実施した。



(2) 実施内容

場所	日程	時間	受講者数
芦屋町中央公民館	令和4年3月8日(火)	10:00~12:00	5人
山鹿公民館	令和4年3月9日(木)	10:00~12:00	7人
芦屋東公民館	令和4年3月11日(金)	10:00~12:00	10人

タイトル	Part4「漢字の成り立ち講座」～生き物に関する漢字の話～		
担当教員	九州女子大学 人間科学部人間発達学科(人間基礎学専攻) 准教授 古木誠彦		
目的	漢字の成り立ちから漢字の面白さを知る。		
概要	漢字の成り立ちを主に考察するが、併せて、我々の日常的慣習や中国哲学・思想についても考える講座内容である。		
準備	①プロジェクター、②パソコン、③スクリーン、④ホワイトボード、⑤書道道具一式		
講座の展開			
	主な講座内容	留意点	
	①「生き物」に関連する漢字の解説	<ul style="list-style-type: none"> 生き物に関する文字で、日常的に使用している漢字を取り上げ、クイズ形で、より平易な文言を用いて解説を行う。 	
	②参考資料として、西周時代青銅器の本物の拓本を展示・解説する。	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の成り立ちを知ることが目的ではあるが、日常的に漢字に興味を持ってもらうことが、最大の目的であることを受講者に認識させながら、講義を行う。 	
	③生き物に関する漢字について字形の特徴を明確に示し、漢字構造のポイントや字訓・字音についても言及する。また、哲学的観念や思想的観念についても簡潔に説明し、漢字の凄さの再発見を促す。	<ul style="list-style-type: none"> 漢字ができた初義と、現在の我々が使用している意味の違い・変化にも言及し、漢字が時代とともに変化しながらも生き続けている、という感覚を養うことに重点もおいて話を進める。 本物の文物の取扱いや見方等も指導する。 	
	④「古代文字を書こう!!」書道実技講座(芦屋東公民館限定)	<ul style="list-style-type: none"> 初の試みで、古代文字(大孟鼎銘文)に特化し、それを実際に筆で臨書する。解説を加えながら、古代文字の書き方や、書芸術としての表現方法について、受講生の前で実作にて示した。 	



漢字に関する解説



字形の説明



受講者の声

- 漢字の成り立ち、語源に興味を持ってました。何事にも意味があること、勉強になりました。
- 時間があつという間に感じるほど先生のお話しが楽しく、回を追うごとに漢字に興味を持てるようになりました。
- 漢字の成り立ちがとても楽しくわかり、それと同時に時代背景も分かったのが良かったです。
- 今後、古代文字に触れた時、今までと違った角度で見られるのではないかと思います。

担当教員の感想

受講生が年々、興味をもって受講されるため、その期待に応えるのが非常に嬉しいし楽しいです。また、講座終了後も、質問等で会話が弾み、私からの解答を受けるだけではなく、受講生がお互いに会話しながら考える姿を垣間見て、本講座が、受講生に知識だけを与えるものではなく、学び方も教授できていることを確認できました。大変嬉しく思います。

第2章 令和3年度の地域連携事業

II. 水巻町との包括的連携事業

平成31年4月17日、実践教育の場で社会の期待に応えられる学生を育成するため、水巻町と包括的地域連携に関する協定を締結した。水巻町と協定を締結することで、双方の持つ資源を結集し、行政や地域が抱える課題の解決、および社会性や実践力を身につけた学生の育成等、双方のメリットを効果的かつ最大限に活かすとともに、連携事業を推進する。水巻町は、町民の防災意識の向上を課題としているため、防災に係る事業を本学と今まで連携してきた。

令和3年度は、町の防災体制の整備と町民のさらなる防災意識の向上を図るため、昨年度に引き続き、町の指定避難所のレイアウト作成事業として水巻中央公民館のレイアウト作成および防災パネルの作成に取り組んだ。

1. 避難所レイアウト作成事業

(1) 概要・関連SDGs

災害発生時における避難者の受け入れ体制を町として確立するため、人間生活学科のカリキュラムにおいて指定避難所のレイアウト作成に着手した。昨年度からの継続として町の指定避難所の一つである水巻中央公民館における、水害時の短期間避難および長期期間避難を想定してレイアウトを作成した。



(2) 実施内容

① 短期避難のレイアウト案の作成

水巻中央公民館において、水害時の短期避難を想定した前提条件を以下のとおり設定したうえで、避難所のレイアウトを作成した。

- ・半日～1日の避難を想定
- ・100人程度の避難者
- ・車での避難可能
- ・ペットの避難可能

使用場所	広さ	収容人数
大和室	171.39㎡ (56畳)	50人程度
大ホール	496.54㎡	100人程度
和室 (楽屋)	20畳	20人程度



【大ホール】

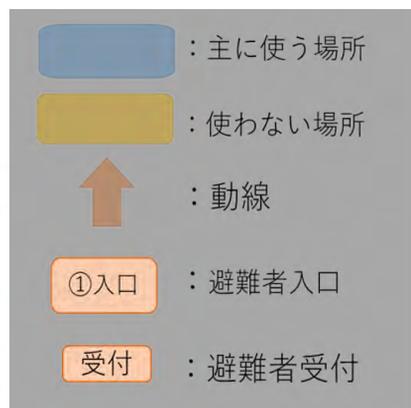
【大和室】



【和室 (楽屋)】



財産台帳建物間取平面図 42-1



施設内使用場所	特徴	備考
第1駐車場	<ul style="list-style-type: none"> 公民館と道路を挟んだ場所にある。 台数はおよそ80台分（4×19台） 	
① 入口・玄関	<ul style="list-style-type: none"> 屋根がある。 基本的に避難者全員にこの入口を使用してもらう。 人工芝が敷いてあり、水害時の水や汚れを落とすことができる。 	
⑦ ロビー	<ul style="list-style-type: none"> 机が6台、椅子が19脚ある。 避難者が受付に行くまでの待機場所として利用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 全員の避難完了後は談笑スペースとして利用する。
⑩ トイレ（和室前）	<ul style="list-style-type: none"> 普通のトイレと多目的トイレがあるため、基本的に共有して使用する。 多目的トイレには、手すりやベビーシート、傾斜鏡が設置してある。 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者、要配慮者（車いす利用者等）、子連れの親等に優先して利用してもらう。
⑧ 掲示スペース	<ul style="list-style-type: none"> 椅子の中にパーテーションが入っており、組み立てて使用することができる。 椅子自体は、高齢者や子どもなどの休憩時に利用してもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> 現在は使われておらず、災害時は連絡事項等の掲示場所として利用できる。
③ 大和室	<ul style="list-style-type: none"> エアコン完備。 コンセントは7つある。 	<ul style="list-style-type: none"> 過去の災害（数時間～1日の避難）では、主にこの部屋を使用していた。
⑤ 和室（楽屋）	<ul style="list-style-type: none"> 襖で2つの部屋に仕切ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 子連れ家族やお年寄り、体調不良者が使うようにする。
⑥ 小会議室	<ul style="list-style-type: none"> 鍵がかけられていることから、赤ちゃんの授乳スペースとして使用する。 	
⑪ 洋室（楽屋）	<ul style="list-style-type: none"> 物資スペースまたは要配慮者や急病者の予備スペースにする。 避難者が待機する空間。 適度な距離感を保つように心がける。 	<ul style="list-style-type: none"> 机は壁側についているため、向かい合わせに座ることなく、コロナ禍でも安全に使用できる。
④ 大ホール（ステージ・受付）	<ul style="list-style-type: none"> 避難者が待機する空間。 適度な距離感を保つように心がける。 	
⑨ ホワイエ	<ul style="list-style-type: none"> ペット用のスペースとして利用する。 ペットは基本ゲージに入れパーテーションで仕切りを作り、動物たちのストレスが抑えられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 奥に出入り口とトイレがあるが防犯面を考慮し、どちらも基本的に使用しない方向で進める。

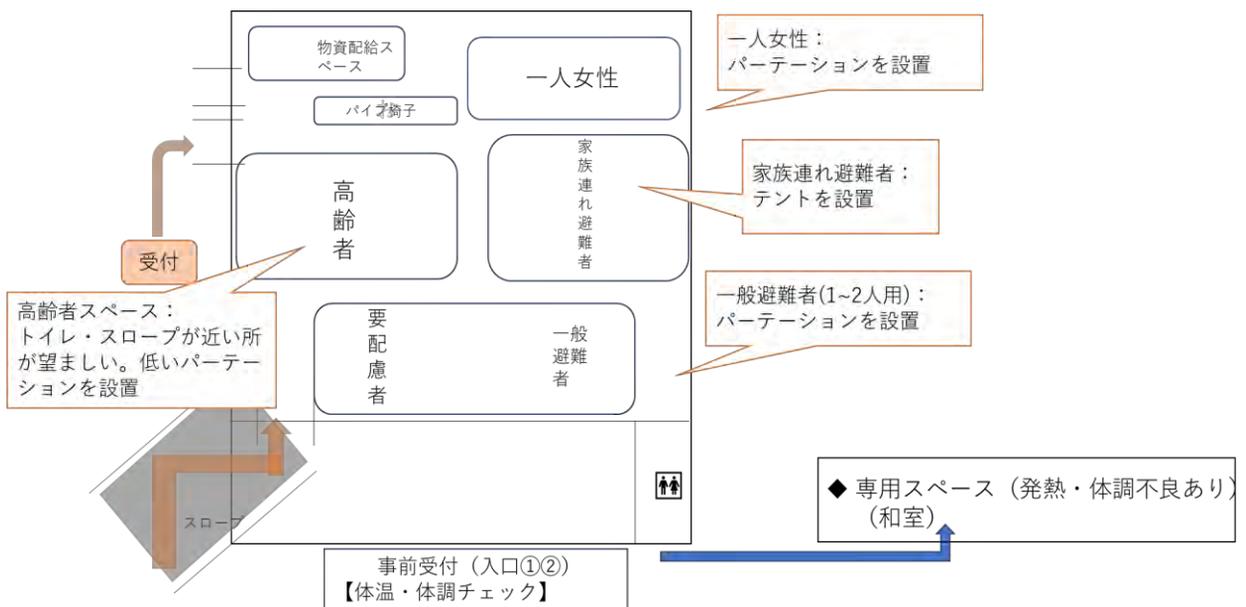
第2章 令和3年度の地域連携事業

②長期避難のレイアウト案の作成

水巻中央公民館において、水害時の長期避難を想定した前提条件を以下のとおり設定したうえで、避難所のレイアウトを作成した。

- ・3日の避難を想定
- ・100人程度の避難者
- ・主な使用場所は大ホール

施設内使用場所	特徴	定員	備考
家族・子連れ区間	W2400×D2400×H1500	1テント3～4人として、48～64人程度	・家族・子連れ区間のみテントサイズ
高齢者区間	W1500×D2250	14人程度	
一般避難 要配慮者区間	W1500×D2250	16人程度	・車いす補助が必要な場合は 臨機応変にパーテーション を取り払う
一人女性用区間	W1500×D1500強	8人程度	・1人女性でも高齢者の方は なるべく高齢者区間に移動 してもらうようにする。 (10～50代の年齢層を中心と する)



2. 防災パネル作成事業

(1) 概要・関連SDGs

災害発生時における避難者の受け入れ体制を町として確立するため、人間生活学科のカリキュラムにおいて防災パネルの作成した。

(2) 実施内容

①防災パネルの作成

水巻町在住の町民に向けた防災周知補助ツールとして防災パネルの作成に取り組んだ。人間生活学科の学生は7チームに分かれ、グループ別に異なるテーマで防災についてのパネルを作成した。

防災パネルの作成

災害について

過去の災害ランキング

1位…台風 2位…地震 3位…水害

発生件数 被害 死者

地震
西日本に比べて、東日本でややオレシクが多いことが分かります。発生は東北や関東地方で比較的多く発生しています。

台風
台風の上陸数が多い都道府県
1位…鹿児島県
2位…高知県
3位…和歌山県

水巻町 with九州女子大学

過去の災害ランキング

水害

通常は河川沿いの地域では、数年に一度は洪水・床上水・家庭用設備などの被害。
→大雨の際、急な増水に注意！！

大雨は山崩落 崖崩落

が行われや土流、地すべりも発生する恐れがある。
→早めの避難を！！

水巻町 with九州女子大学

水害の様子

あなたのお家は何色？

土砂災害警戒区域 (イエローゾーン)
土砂災害が発生しやすい地域がある区域
土砂災害特別警戒区域 (レッドゾーン)
土砂災害が発生しやすい地域がある区域
洪水浸水想定区域
想定最大洪水 (1.5m未満) (土砂災害警戒区域)
想定最大洪水 (1.5m以上) (土砂災害警戒区域)
避難勧告等の発令区域 (指定区域として発令がなされる区域)

水巻町 with九州女子大学

ハザードマップ

避難について

水害時の避難のタイミング

～情報の取り入れ方～

緊急安全確保 避難指示 避難勧告等避難 注意情報 緊急注意情報

避難指示 全島避難!!

避難勧告等避難 避難勧告は避難所以外に避難する

注意情報 避難行動の確認 気象庁が情報発信

緊急注意情報 心構えを高める どのように避難するか考えておきましょう

あなたは何段階のタイミングをどの手段で確認する？

スマホを持っていませんか？

東分SNS(Twitter・LINE)で情報をチェック!

テレビで確認をチェック!

水巻町 with九州女子大学

水害時の避難のタイミング

水害時の避難のタイミング

～情報の取り入れ方～

東分SNS(Twitter・LINE)で情報をチェック!

テレビの災害情報番組をチェック!

水巻町災害情報サービスヒス

水巻町 with九州女子大学

災害時に最低限必要な避難グッズ

A 在宅避難 C 知人宅 D ホテルなど

B 避難所

女性には

高齢者には

避難所では必要な避難グッズ

水巻町 with九州女子大学

避難グッズ

あなたはどうする？

～コロナ禍での避難～

避難所での3密を避けるために「分散避難」が推奨されています。

どこに避難？～ハザードマップを確認～

ハザードマップで自宅の基準点を確認し、いざいときの避難場所を考えたおきましょう。

A 在宅避難 B 避難所 C 知人宅 D ホテルなど

水巻町 with九州女子大学

コロナ禍での避難

(3) 町民への周知

水巻町の新型コロナウイルス感染症のワクチン接種会場となっている水巻中央公民館において、学生が作成した防災パネルの展示を行った。ワクチン接種に訪れた町民たちはパネルの前で立ち止まり真剣に内容を眺めている様子であった。



(3) 成果発表

令和4年1月25日、本事業について学生が発表した。今年度実施した避難所レイアウト作成および防災パネル作成事業に関しては、次年度の活動へ繋げていくこととした。水巻町との連携事業を通じて、学生の研究へ還元することができ、地域教育実践研究センターの基本方針である「学生の質保証の強化」へ繋げることができた。



第2章 令和3年度の地域連携事業

Ⅲ. 北九州市との連携事業

1. 放課後児童クラブの指導員を対象とした公開講座

(1) 概要・関連SDGs

平成25年9月1日に北九州市と本学で「北九州市放課後児童クラブの振興に関する連携」について協定を締結した。平成27年度連携事業開始にあたっては、放課後児童クラブの要望を把握するため、児童クラブの指導員を対象にアンケート調査を行った。このアンケート調査の結果から、4領域(①生活、②遊び、③活動・行事、④衛生等)について公開講座の要望があった。

平成27年度から令和2年度は、これらの要望に基づいて以下のとおり公開講座を実施した。

令和3年度については、大規模型公開講座を1講座実施予定であったが新型コロナウイルス感染症の影響により開催を中止した。



(2) 大規模型公開講座の実績

講座名	受講者数	担当教員	実施年度
プレイフル・ラーニングの視点から子どもを「支える」を考える-「本気で遊ぶ、本気で学ぶ」の可能性-	開催中止	人間発達学科 谷口 幹也	R3年度
子どもの姿のとらえとかかわり方 ～コロナ禍での対応も含めて～	市内指導員84人	人間発達学科 蒲原 路明	R2年度
応急手当の基本と食物アレルギー対応	市内指導員88人	人間発達学科 春高 裕美	R1年度
明日からの支援に活かそう健康観察と応急処置	市内指導員92人	人間発達学科 春高 裕美	H30年度
明日からの支援に活かそう健康観察と応急処置	市内指導員94人	人間発達学科 春高 裕美	H29年度
子どもの発達と児童期の関わり方	市内指導員496人	人間発達学科 蒲原 路明	H29年度

(3) 通常型公開講座の実績

【領域①：生活】

内容	要望	講座名・実施クラブ	担当教員	実施年度
生活指導	<ul style="list-style-type: none"> 高学年の発達に応じた独自の生活指導の研修があれば良い。 児童と指導員との対応の仕方。例えば、問題児との関わり方等、具体策について勉強してみたいと思う。 	子どもの発達特性を活かした生活集団づくり 萩原学童保育クラブ 受講者数:指導員12人	人間発達学科 神代 明 藤川 一俊	H27年度
発達障害	<ul style="list-style-type: none"> 発達障害やボーダーラインの子どもたちに関する研修があれば参加したい。 発達障害を持った児童に対する指導方法、落ちつきのない児童(グレーゾーン)の対応、声かけ等 	発達障害の子どもの特性と基本的理解 けやき児童クラブ 受講者数:指導員13人	人間発達学科 石黒 栄亀	H28年度
保護者クレーム対応	<ul style="list-style-type: none"> 児童同士のトラブルにおける保護者からのクレーム対応 	※北九州市が別途研修実施済		

【領域②：遊び】

内容	要望	講座名・実施クラブ	担当教員	実施年度
遊び(レク)	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの興味をひく遊びや低学年用、高学年用等、年齢に合った遊び 遊びのスペースが狭いため、限られた環境に適した遊びの指導、小学校高学年児童向けのもの 	高学年における集団遊び 医学生児童クラブ 受講者数:指導員7人/児童7人	人間発達学科 藤川 一俊	H27年度

【領域③：活動・行事】

内容	要望	講座名・実施クラブ	担当教員	実施年度
ダンス・手遊び	<ul style="list-style-type: none"> 夏休み等にいくつかのクラスに分けて、ダンス、制作、その他希望する活動が一齐にできればとてもありがたい。 ダンス、演奏等の活動はできていないと感じているため、楽しんで体を動かす活動を教えてあげて欲しい。 	体を動かすことを楽しもう！ ～リズムにのって楽しく～ 折尾児童館内放課後児童クラブ 受講者数:指導員11人/児童22人	人間発達学科 青山 優子	H27年度
		リズム表現を通した子どもの心と体への働きかけ 曽根東校区放課後児童クラブ 受講者数:指導員15人	子ども健康学科 津山 美紀	H28年度
工作・美術	<ul style="list-style-type: none"> 全学年が満足する夏休みの工作で毎年悩んでいる。 科学的な実験や、動くおもちゃの制作等、子どもの興味、好奇心をそそるような体験行事があると良い。 	制作体験(工作・美術)～実用的なものから遊べる制作物まで～ 西小倉なかよし学童クラブ 受講者数:指導員14人	子ども健康学科 富永 剛	H28年度
活動	<ul style="list-style-type: none"> 職員の啓もう もっと1～6年生が気軽にできたり、夏に取り組める例を知りたい。 	いろんな学年の子どもたちを楽しく遊ばせよう 星の子・木屋瀬放課後児童クラブ 受講者数:指導員23人	人間発達学科 萬徳 紀之	H29年度

【領域④：衛生等】

内容	要望	講座名・実施クラブ	担当教員	実施年度
応急処置	<ul style="list-style-type: none"> ハチにさされた、大量の鼻血、けいれん等の応急処置の仕方。 インフルエンザ等で隔離が困難であるため、このようなケースの対応について。 	やってみよう！ 緊急対応と応急処置 鴨生田放課後児童クラブ 受講者数:指導員9人	人間発達学科 春高 裕美	H27年度
		応急処置～実際にやってみよう、緊急対応と応急処置～ 松ヶ江北校区放課後児童クラブ 受講者数:指導員13人	人間発達学科 春高 裕美	H28年度
おやつ	<ul style="list-style-type: none"> 児童に多い疾病、食物アレルギーに関する対処方法等 簡単で時間と手間をかけずにできる手作りおやつのレシピ紹介 	※北九州市が別途研修実施済		
アレルギー	<ul style="list-style-type: none"> アナフィラキシーショックの対応(エピベン使用)の研修 アレルギーの「完全除去」「製造ラインから除く」等、基礎的な知識とおやつ工夫を知りたい。 	応急処置～実際にやってみよう、緊急対応と応急処置～ 松ヶ江北校区放課後児童クラブ 受講者数:指導員13人	人間発達学科 春高 裕美	H28年度
不審者対応	<ul style="list-style-type: none"> 不審者が侵入した際の子どもの誘導、カラーボールを準備して投げる等 女性でも子どもたちを守る護身術等。他に救急対応、不審者対応等 	不審者対応と護身術 永犬丸放課後児童クラブ 受講者数:指導員8人	人間発達学科 神代 明	H29年度
			子ども健康学科 松崎 守利	

IV. 折尾二三会との包括的連携事業

本学と折尾二三会*は、令和元年度に人間生活学科のカリキュラムにおいて、子ども職業体験イベント「おりちょこランド」の企画運営に共同で取り組んだ(令和元年10月22日開催)。本事業を通じて、学生と社会人が接することで、学生の社会人理解へ繋がったとともに、イベント企画の立案、段取りや進行等を実践的に経験し、社会人基礎力の養成へ繋がった。また、折尾二三会は様々な業種の企業で構成されていることから、学生は実践的に業界研究の視点や考えを深める機会となった。この事業実績を踏まえ、大学と企業が産学連携することで、折尾地区の活性化、学生の社会人基礎力の養成、および地元企業への理解促進を図るため、令和2年8月3日に本学と折尾二三会で包括的連携協定を締結した。

令和3年度は、大学の敷地内で地元の子どもたちを対象としたイベントの企画運営に取り組んだ。

※折尾二三会とは、1984年に誕生し、折尾地区を中心とした若手経営者による異業種交流団体である。

1. 九女わくわくパークの企画運営

(1) 概要・関連SDGs

大学2年生の総合共通科目であるスキルアップ講座P(なでしこ I)において、実践的に社会人基礎力「前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力」を養成するため、地元の子どもたちを対象とした「九女わくわくパーク」を企画のうえ開催し、近隣の小学校の児童等30名が参加した(令和3年11月28日開催)。九女わくわくパークの内容は、日本の伝統文化を学ぶ「遊び」で構成し、折尾二三会と連携して企画を立案した。



(2) 実施内容

①学習

スキルアップ講座P(なでしこ I)において、社会人基礎力となるマナーの基本と課題解決学習で学びを深めた。また、課題解決学習では、人間生活学科の3年生がファシリテーターとして2年生をサポートし、学科と学年を超えた授業を展開した。

②発想・企画

授業において、学生の学びを定着させること、および地域の子どもたちに学びと遊びの場を提供することを目的に、冠婚葬祭をテーマとした日本の伝統文化を体験するイベントを企画した。企画内容については、各チームごとに折尾二三会と打合せを行い、資料の作成や、試作品の提示を行った。これらの折尾二三会との連携を通じて、イベントの企画内容を発展させた。



③実践(九女わくわくパークの開催)

「九女わくわくパーク」は、学生が学んだ冠婚葬祭をテーマとした遊びのブースを4ブース、季節ブースを2ブースの計6ブースで展開した。また、コロナ禍における開催となるため、参加人数を限定し、本学と連携している小学校を中心に呼びかけた。当日は、30名の子どもたちが参加し、保護者と楽しんでゲームに参加する姿や、集中して黙々と製作する姿が見られた。

テーマ	実施内容
冠	【作って飾ろう！～初節句～】色紙をちぎってはって、オリジナルの人形やこいのぼりを作ってみよう！
婚	【結婚式の飾りを作ろう】結婚式のマナーを知って、おしゃれでかわいい飾りを作ろう！
葬	【供花選びゲーム】お葬式にふさわしい花を選び、供花する理由やお花の意味を学ぼう！
祭	【祭り探しゲーム】あちこちに散らばった祭りを探して、年間行事についてみんなで知ろう！
季節	【凧作り体験】新年にかかわる〇×クイズを解いて一緒に凧を作ろう！ 【リースを作ってみよう！】自分だけのリースを作ってみよう！

各ブースの様子



【冠】作って飾ろう！～初節句～



【婚】結婚式の飾りを作ろう



【葬】供花選びゲーム



【祭】祭り探しゲーム

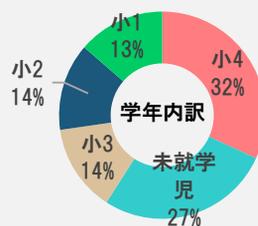
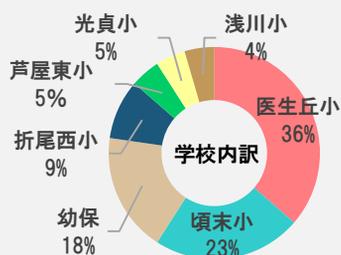


【季節】凧作り体験



【季節】リースを作ろう

■参加者データ(n=30)



④発表・評価・振り返り

課題解決型学習では、学習の目的への理解や成果への客観的な評価も重要となる。企画の意図を当日のイベントに反映できたか、準備は足りていたか、目的は達成できたか等、当日までの歩みを振り返るとともに、授業で学んだことをチームごとに発表した。



(3) 成果

本事業を通じて、折尾二三会と連携した学生は、社会人として必要なスキルを実践的に学ぶことができた。また、冠婚葬祭の「遊び」を企画した学生は、自分自身が学んだことを「九女わくわくパーク」を通じて、子どもたちに教えることで学習を定着させることができた。さらに、ファシリテーターとして参加した人間生活学科の3年生は、2年生の意見整理、合意点のまとめ等、様々なサポートを行ったことにより、把握力、複眼力、統率力等の能力を向上することができた。全体として、本事業に携わった学生は、「①学習」「②発想・企画」「③実践」「④発表・評価・振り返り」の4段階で学ぶことで、社会人基礎力「前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力」を身につけることができた。

V. 不二製油株式会社との包括的連携事業

不二製油株式会社では、地域の方の体づくりや健康促進を目的に大豆を使用した製品の開発等に取り組んでいる。大豆は、健康維持・増進に効果的であると考えられる研究が数多く発表され、大豆加工食品の日常的摂取を通して健康寿命を延ばそうという動きが、世界規模で見られている。

本学と不二製油株式会社は、教育、研究、メニュー開発に伴う技術振興、製品スペックのアドバイス、人材交流等の分野において協力のもと、地域の発展と人材の育成に寄与するため、令和2年4月1日に包括的連携協定を締結し、大豆加工食品の開発に取り組んだ。

1. 大豆加工食品を活用した製品開発事業

(1) 概要・関連SDGs

大豆製品を日常生活に簡単に取り入れることを目的に、そのままでも摂取可能な「大豆パフ」の共同開発を行った。本事業では、大豆パフのレシピ集を作成した。



(2) 実施内容

①試作

大豆パフレシピを開発するため、レシピ修正を行い、最終的に全国の企業に紹介することを目的として、不二製油株式会社と大豆パフレシピを19品開発した。

お菓子レシピ	フロランタン、チョコバー、チョコレートタルト、サクサクバター、バナナミルクスムージー、バナナパウンドケーキ、ごま団子、サターアングギー、チョコレートアイス、クッキー、レモンスコーン
お惣菜レシピ	ふりかけ（韓国風）、豆ナゲット、かぼちゃコロッケ、餃子、ピザ（餃子の具）、ハンバーグ、麻婆なす、炒飯

②試作品の試食

栄養学科の学生が開発した19品を、不二製油株式会社本社に送付した。送付した試作品を営業や研究開発の職員40名が試食し、結果は高評価であった。



試食会の様子

③嗜好調査アンケートの実施

考案したメニューについて、今後の商品開発に向けて若い女性に受け入れられるか否か検討するため、商品開発した19品のうち10品について、九州共立大学女子バレーボール部39名を対象としたアンケート調査を行った。



総合評価はチキンナゲットが高く、次いでフロランタン、チョコバー等が支持された。高評価群と低評価群どちらも総合評価には継続性が関わっていた。また、おかず群とスイーツ群では、どちらも後味が総合評価に関わっていることが判明した。

	NO.	料理名	平均±標準偏差		NO.	料理名	平均±標準偏差
高評価群	1	チキンナゲット	8.2±1.57	低評価群	6	スムージー	7.1±2.47
	2	フロランタン	8.1±1.92		7	クロquette	7.0±1.97
	3	チョコバー	7.9±2.11		8	アイスクリーム	6.9±2.08
	4	ふりかけ	7.8±1.90		9	バナナパウンドケーキ	6.8±1.87
	5	炒飯	7.5±1.80		10	ピザ	6.3±1.97

高評価群	標準化係数	p値	低評価群	標準化係数	p値
見た目	0.176	0.000	見た目	0.161	0.000
おいしさ	0.166	0.000	おいしさ	0.175	0.000
食感	0.205	0.000	食感	0.180	0.000
後味	0.182	0.000	後味	0.185	0.000
また食べたい	0.211	0.000	また食べたい	0.215	0.000
継続性	0.226	0.000	継続性	0.225	0.000

おかず群	標準化係数	p値	スイーツ群	標準化係数	p値
見た目	0.175	0.000	見た目	0.142	0.000
おいしさ	0.181	0.000	おいしさ	0.142	0.000
食感	0.177	0.000	食感	0.181	0.000
後味	0.216	0.000	後味	0.214	0.000
また食べたい	0.206	0.000	また食べたい	0.229	0.000
継続性	0.194	0.000	継続性	0.21	0.000

④パンフレットの作成

大豆パフを用いて作成した19品の商品化に向けてパンフレットを作成した。作成したパンフレットは日本全国の食品メーカーに配布されることとなった。



(3) 成果発表

令和3年12月23日、本事業について学生が卒業研究として発表した。発表内容は、「産学連携の取り組み～大豆パフ製品化について～」という題目で、大豆パフのレシピ開発および試作品の嗜好調査の結果を発表した。不二製油株式会社との連携事業を学生の卒業研究へ還元することができ、地域教育実践研究センターの基本方針である「学生の質保証の強化」へ繋げることができた。

VI. 株式会社えん・コミュニケーションズとの包括的連携事業

株式会社えん・コミュニケーションズは、北九州市に位置する水産食料品製造会社であり、明太子、たらこの製造を中心として、しめ鯖、寿司ネタ、総菜等を製造している。株式会社えん・コミュニケーションズから、本学に対して新製品の共同開発について依頼があった。このことから、本学と株式会社えん・コミュニケーションズは、教育、研究、商品開発に伴う技術振興、人材交流等の分野において協力のもと地域の発展と人材の育成に寄与するため、令和2年8月3日に包括的連携協定を締結し、新製品の開発に取り組んだ。

1. 鯖および明太子を活用した製品開発事業

(1) 概要・関連SDGs

株式会社えん・コミュニケーションズでは、鯖1尾あたり、頭部、尾、内臓、中骨等、約50%が廃棄され、月間約30tが廃棄量となっている。このことから、栄養学科の学生が、同社の主力商品である鯖と明太子を活用した食品ロス軽減に繋がる一般消費者向けの新製品を考案するため、計9品のレシピを開発した。



(2) 実施内容

① コンセプトの設定

新製品を考案するにあたり、以下のとおりコンセプトを設定した。

- ・調理の手間を省き、手軽に食べることができる
- ・福岡県産の野菜を使用する
- ・生産工程がシンプルかつ低コストである
- ・既存にない商品であり、大学生らしい新しく自由な発想のレシピであること

② レシピ開発

鯖フィレを使用したレシピを4品、明太バラ子を使用したレシピを5品開発した。

鯖フィレ	鯖ドリア（トマト味、味噌味）、鯖チャーハン、鯖カレーシュウマイ
明太バラ子	博多明太たたきごぼう、明太めんつゆ、明太おつまみチーズ、めんたい餃子、明太子アイスクリーム



③ 試食会の実施

栄養学科の学生が試作した9品について、試食会を行った。9品のうち3品について改善案が出たため、改善を行った。



	改善点	改善後
<p>鯖カレー シュウマイ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・鯖の味が薄い ・キャベツの量が少ない ・シュウマイの形がつぶれている 	<ul style="list-style-type: none"> ・水分を絞ったキャベツを40g使用 ・調味料を追加し、コクを出した ・見た目の改善 
<p>明太めんつゆ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ボトルの底に明太子が沈殿している ・明太子の色が薄く味が物足りない ・麺に明太子が絡みにくい 	<ul style="list-style-type: none"> ・パプリカパウダーを加えて赤みを出した ・増粘剤を加えてつゆにとろみを出し、明太子の沈殿や絡みの改善  <ul style="list-style-type: none"> ・めんつゆをドレッシングに応用 
<p>明太子アイス クリーム</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・味が種類しかない ・明太子の辛みとアイスクリームの甘みのバランスの調整 	<ul style="list-style-type: none"> ・辛さの異なる3種類の明太子ソースを作成 

(3) 成果発表

令和4年12月23日、本事業について学生が卒業研究として発表した。発表内容は、「株式会社えん・コミュニケーションズとの一般消費者向け商品の開発」という題目で、鯖および明太子の廃棄部分を用いたレシピ開発、改良点等を発表した。株式会社えん・コミュニケーションズとの連携事業を学生の卒業研究へ還元することができ、地域教育実践研究センターの基本方針である「学生の質保証の強化」へ繋げることができた。

Ⅶ. インターンシップ推進事業

本学のインターンシップについては、文部科学省・厚生労働省・経済産業省が提言している「インターンシップ推進に当たっての基本的考え方」に則り、「学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと」として、地元企業を中心としたインターンシップ推進事業に積極的に取り組むことで、学生のインターンシップへの参加を促進している。

令和3年度は、学生に対して新型コロナウイルス感染防止対策の徹底を促したうえで、学生を派遣した。また、上述の「インターンシップ推進に当たっての基本的考え方」に関して、今般のインターンシップを取り巻く状況の変化等を踏まえ取りまとめられた留意点を考慮し、より教育効果の高いインターンシップの推進・普及を実施するため、大学2年生より正規の教育課程にインターンシップ科目、「インターンシップⅠ」「インターンシップⅡ」を配置し、学生を派遣した。

1. インターンシップの種類

文系インターンシップ	北九州市内の学生に対して、職業意識の醸成や勉強意欲の向上、および市内企業への就職促進を図るため、市内の大学、短期大学、企業、北九州商工会議所が連携・協力し、文系学生を対象に就労体験の場を提供する事業である。
課題解決型インターンシップ	北九州商工会議所が実施主体となり、北九州市内の学生に社会的基礎力を修得させるため、地域産業や企業等の課題を題材として実施する課題解決型の事業である。
(一社)九州インターンシップ推進協議会 通常型インターンシップ	九州全体を見据えたインターンシップの推進と次代を担う若手の人材を育成するため、九州経済産業局や地元経済界、主要大学による産学官が協力して実施する事業である。
山口県インターンシップ推進協議会インターンシップ	山口県の経済・社会の活性化に貢献するため、県内の高等教育機関等、事業所、経済団体、行政機関が相互に連携・協力し、企業等へのインターンシップを通じて、高い職業意識の育成を推進する事業である。
北九州市インターンシップ	職業意識の向上、人材育成、および市政に対する理解を深めるため、市と協定を締結した教育機関の学生を対象とした市役所の公務に関する職業体験事業である。

地域教育実践研究センター

地域教育実践研究センターでは、各インターンシップの夏季および春季の参加者を募集し、参加希望者の応募手続きを行っている。

文系インターンシップ

課題解決型インターンシップ

(一社)九州インターンシップ推進協議会 短期仕事理解型インターンシップ

山口県インターンシップ推進協議会 インターンシップ

北九州市インターンシップ

インターンシップを通じて学べること

- 業務内容や企業について深く知ることができる。
- 今後の業界・職種・企業選びやキャリアプラン設計の材料となる。
- 社会人としての意識、働くことへの意識が身につく。
- 実務の業務スキルが得られる。

2. インターンシップ参加スケジュール

インターンシップに参加する学生に対して、本学独自の事前研修を行い、社会に必要なスキルを事前に身につけたうえで企業へ派遣するフォロー体制を整えている。また、インターンシップ終了後は、インターンシップ時の評価をフィードバックし、その後の就職活動に繋げている。インターンシップ参加のスケジュールは、以下のとおりである。

(1) 夏季インターンシップ

5月

参加学生の募集開始

チラシ掲示による案内、キャリアデザイン科目等での説明
必要書類の提出



6月

企業と学生のマッチングによる受け入れ先決定

7月

学内事前研修

インターンシップの意義やマナーについて学内で研修

学外事前研修 ※(一社)九州インターンシップ推進協議会に限る
主催側によるインターンシップの意義、マナーについて他大学参加者と共に研修



8~9月

インターンシップ

9月

学外事後研修 ※(一社)九州インターンシップ推進協議会に限る
主催者側によるインターンシップの振り返り



(2) 春季インターンシップ

11月

参加学生の募集開始

チラシ掲示による案内、キャリアデザイン科目等での説明
必要書類の提出



12月

企業と学生のマッチングによる受け入れ先決定

1月

学内事前研修

インターンシップの意義やマナーについて学内で研修

学外事前研修 ※(一社)九州インターンシップ推進協議会に限る
主催側によるインターンシップの意義、マナーについて他大学参加者と共に研修



2~3月

インターンシップ

3月

学外事後研修 ※(一社)九州インターンシップ推進協議会に限る
主催者側によるインターンシップの振り返り



第2章 令和3年度の地域連携事業

3. 各インターンシップの実績

(1) 文系インターンシップ

①事業概要

参加大学・人数	【夏季】計:延べ121人 九州女子大学:9人 九州国際大学:1人 折尾愛真短期大学:2人 九州産業大学:1人 立命館大学:1人	九州共立大学:16人 西南女学院大学:69人 下関市立大学:1人 福岡工業大学:1人	北九州市立大学:5人 西日本工業大学:3人 梅光学院大学:6人 福岡大学:5人
	【春季】計:延べ121人 九州女子大学:15人 西南女学院大学:7人 梅光学院大学:4人 日本経済大学:2人	九州共立大学:39人 西日本工業大学:8人 九州産業大学:2人 国際教養大学:2人	北九州市立大学:32人 折尾愛真短期大学:8人 福岡工業大学:2人
企業数	参加企業数:夏季48社/春季55社 受入企業数:夏季30社/春季35社		
実施期間	夏季:令和3年8月～9月 春季:令和4年2月～3月		

②本学の実施状況

	受け入れ先	日程	日数	人数
夏季	池田興業㈱	8/18～19	2日	1
	㈱ルネ	8/23～24	2日	1
	旭倉庫㈱	9/2～4	3日	2
	㈱村上精機工作所【オンライン】	9/7～9	3日	1
	㈱アンサー倶楽部	9/8～10	3日	2
	㈱サンリブ	9/14～16	3日	1
	小林青果㈱	10/16	1日	1
	㈱西日本シティ銀行北九州総本部	※新型コロナウイルス感染症の影響により中止		
	㈱ドーワテクノス	※新型コロナウイルス感染症の影響により中止		
計(延べ人数)				9
春季	㈱スズキ自販福岡【オンライン】	2/1～2	2日	1
	i6TG㈱【オンライン】	2/8～10	2日	5
	ネットヨタ北九州㈱【オンライン】	2/11	1日	1
	㈱アンサー倶楽部	2/14～16	3日	2
	(一社) UBUNTU FSプロモーション	2/14～18	5日	1
	吉南㈱【オンライン】	2/15	1日	1
	㈱ルネ	2/16～17	2日	1
	池田興業㈱	2/17	1日	1
	㈱グローバルマーケット【オンライン】	2/22	1日	1
	㈱木輪	3/9～11	3日	1
	㈱西日本シティ銀行北九州総本部	※新型コロナウイルス感染症の影響により中止		
計(延べ人数)				15
合計(延べ人数)				24

学生のコメント	・店舗見学では社長からお話しを聞くことができました。社員の方を大切に思っていること、お客様へのおもてなしの心が垣間見えたように感じました。
受け入れ先のコメント	・参加された方たちとコミュニケーションをご自身から取り、チームの調和をうまく図っていらっしゃいました。とても優秀な方とお会いできて、私たちもとても嬉しく思います。

(2) 課題解決型インターンシップ

①事業概要

参加大学・人数	計:8人 九州女子大学:3人 北九州市立大学:3人 西日本工業大学:2人
実施期間	令和4年2月8日～2月25日

②実施内容

プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ①オリエンテーション(趣旨説明、自己紹介、グループ分け等) ②専門家による講義(ホームページやSNSの活用方法や制作のポイント) ③企業へのヒアリング 3者(企業・学生・北九州商工会議所)がオンラインで意見交換を行う ④グループワーク 各グループが個別にWEBを活用した企業の魅力発信について提案し、報告発表用資料の作成を行う ⑤全体ミーティング(参加学生が全員参加) 専門家も交え、それぞれのグループ活動の進捗確認や情報交換等を行う ⑥発表資料の確認(各グループ・北九州商工会議所) ⑦報告発表用の動画撮影 <p>■調査協力企業 (株)リョーワ/(株)総合システム/(株)フジコー</p>
学生のコメント	<ul style="list-style-type: none"> ・今回のインターンシップをお推してチームで意見を出し合いながら一つの課題に取り組むことの難しさと楽しさを学びました。 ・人の話していることを記憶し、それについてしっかりと考えを持つことが、課題の解決には必要であると感じました。 ・今回はチームで同じ目標に向かって進まなければならなかったため、コミュニケーションや全員が積極的に参加することを意識して課題に取り組みました。

(3) (一社)九州インターンシップ推進協議会 通常型インターンシップ

①本学の実施状況

※令和3年度の本学学生の参加者なし

(4) 山口県インターンシップ推進協議会インターンシップ

①本学の実施状況

	受け入れ先	日程	日数	人数
夏季	東京靴(株)(シューズ愛ランド) 下関店	8/12～18(14,15を除く)	5日	1
合計				1

学生のコメント	インターンシップを通して接客のいろはを学びました。アルバイトでの接客は見様見真似で覚えたものであり、しっかりと基礎から学ぶのは初めてのことでした。靴屋ならではのしゃがみ姿勢での接客や立ち振る舞いを教わり、普段のアルバイトにも生かしていける強みとなりました。
---------	--

(5) 北九州市インターンシップ

①本学の実施状況

	受け入れ先	日程	日数	人数
	総務局 女性活躍推進課 男女共同参画推進課	8/2～6	5日	1
合計				1

学生のコメント	今回のインターンシップで課長をはじめとした、市職員の方々や、他のインターンシップ生と関わって、人それぞれ物事に対する考え方や感じ方が違うと実感しました。自分が思いつかなかった視点からの意見や提案を聞いて、新しい発見をしたので、今後の大学生活でなるべく多くの人と関わり、自分の視野を広げていきたいです。
---------	--

第2章 令和3年度の地域連携事業

Ⅷ. 学生ボランティア事業

本学は、幼児教育者や学校教員等を目指す学生に現場経験を積ませるため、グリーンティーチャー等として、幼稚園・保育所、小学校、特別支援学校等に数多くの学生を派遣している。また、ボランティアとして、病院施設、図書館等にも学生を派遣している。

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、学生の派遣を一部中止し、同学園の自由ヶ丘高等学校における蔵書点検ボランティアのみ実施した。

【ボランティア事業の種類】

九州女子大学	グリーンティーチャー 取得免許毎の学生の実践力向上を図る事業について、「グリーンティーチャー」と命名し、グリーンとは、「緑の、未熟な、未経験の、元気のいい、若々しい、新鮮な」という意味を含んでいる。教育現場等において、園児や児童の指導補助・学習支援等を通し、学生の実践力を身につける本学独自の取り組み。
	病院・施設ボランティア 病院(病児保育)・施設(療育施設)において、多様な保育環境に対応できる保育者を育成する取り組み。
	図書館ボランティア 図書館において、図書館司書資格に必要な知識と技術を実務経験を通して身につけ、現場で図書館司書の役割等を理解する取り組み。
九州女子短期大学	幼稚園・保育所・施設ボランティア 幼稚園・保育所・施設の行事等の多様な活動において、役割や仕事を実践・思考することで、職業人として必要な力を育成する取り組み。
	キャラバン隊 九州女子短期大学の実践型教育として、幼稚園・保育所・施設・学校等に出向き、模擬保育や模擬授業を展開する取り組み。

【今年度実施したボランティア】

1.蔵書点検ボランティア

図書館司書課程では、司書として必要な知識と技術を実務経験を通して身につけることを行っているが、令和3年度も昨年に引き続き、公共図書館でのボランティア活動は休止した。今年度は系列校の自由ヶ丘高等学校において、蔵書点検ボランティアを通して、延べ32名の学生が体験学習を行った。

(学生のコメント)

今回の経験を経て実際に自分の目で見て体験してみると得られたものや、自分自身に自信がついたことで、私は今後こういった活動に参加したいという意欲がより一層強まった。今年度は感染症の蔓延もありボランティア活動の募集自体が少なかったという側面もあるかもしれないが、私は今後学校から提示された活動だけでなく自ら能動的に活動について調べたり、積極的に参加したりしたいと考えている。

実際に体験してみて、想像よりも、体力や忍耐力のいる作業であると気づくことができた。やはり、教科書や自分の想像だけでは分からないこともあるのだと実感した。また、今回の経験を通して、作業方法や注意点について学び、蔵書点検の知識を得ることができた。



IX. その他の地域連携諸事業

1. 北九州市民カレッジにおける公開講座

北九州市民カレッジは、北九州市(生涯学習総合センター)が主催で、市民に対して多様な学習ニーズに対応した生涯学習機会を提供し、人材育成を図ることを目的に運営している講座群である。令和3年度は、「コロナ禍下での暮らし方」をテーマとした全6回の大学連携リレー講座において、人間生活学科の糟須海圭子教授による「年中行事を取り入れた彩りある暮らしの提案」をテーマとした講座を開講した。



2. 若者によるインターネットTV座談会「そうだったのか町内会」の開催

若者によるインターネットTV座談会「そうだったのか町内会」は、北九州市小倉南区自治会総連合会が主催し、熟年世代の役員が中心の運営および高齢化と加入世帯の減少等の課題解決を目的とした、若い世代が町内会について知り、繋がるきっかけを探る事業である。本事業では北九州市立大学の学生や社会人とともに、人間発達学科人間基礎学専攻の3年生2名が参加し、人間発達学科人間基礎学専攻の大島まな教授がファシリテーターとして進行役を務めた。座談会の様子は小倉南区内の市民センターからWebを通じて発信し、各自治体関係者や地域住民がオンラインで視聴した。



3. 消費者フェスティバル2021×SDGsの開催

消費者フェスティバルは、北九州市消費生活センターが主催し、市民の消費者意識の向上を図ることを目的とした若年者(大学生)との連携事業である。学生の地域連携・地域貢献を学ぶ機会とするため、人間生活学科の3年生および4年生15名が、企画・展示物の作成および運営を行った。「まなびの」協力のもと、11月13日にイオンモール八幡東にて、消費者フェスティバルを開催し、子どもから大人まで楽しみながら学べるイベント(「おこづかい帳づくり」「お買い物ゲーム」「SNSクイズ」「リスクへの備え」「ごみの分別」「スタンプラリー」)の考案、パネル・PP・リーフレットの作成、当日会場での説明等を行った。



4. 「ジビエ料理プロジェクト」の取り組み

「ジビエ料理プロジェクト」とは、令和3年度に本学園とプレミアムパートナーシップを締結した、北九州を拠点に活動するJ2リーグのプロサッカーチーム「ギラヴァンツ北九州」と、そのフレンドリータウン協定先であるみやこ町、九州共立大学および九州女子大学が共同で取り組んだ事業である。有害鳥獣であるイノシシやシカによる農作物の被害を課題としているみやこ町から、駆除されたイノシシ等を有効活用した新名物を作り、地域活性化に役立てることを目的とした商品開発の依頼を栄養学科が受け、ジビエ料理のレシピを考案した。考案されたイノシシカレーおよびシカ肉のウインナーを使用したホットドッグは、ミクニワールドスタジアムにおいてギラヴァンツ北九州の試合日に合わせ、販売した。



5. 近隣他大学との連携

北九州市内の大学等(本学、九州共立大学、北九州市立大学、九州国際大学、西南女学院大学、九州栄養福祉大学、九州工業大学、梅光学院大学、北九州工業高等専門学校)によるキャリア連携会議を昨年度からの継続事業として実施した。本会議(WEB開催)において、定期的に新型コロナウイルス感染症に対する各大学の就職活動に関する対応、授業対応、企業への対応、インターシップの対応、および就職内定状況等について情報交換した。

X. 研究活動

1. 学会報告：地域活性学会「第13回研究大会」

(1) 概要

本学の地域教育実践研究活動をさらに発展させるため、他大学等の地域連携事業に関する研究や事例の情報等を得ることを目的に、平成28年度から地域活性学会の団体会員に大学として加入している。地域活性学会は、内閣官房・内閣府と連携した「地域再生システム論」の授業を開講している大学が中心となり、平成23年10月、地域再生を目指して設立された。現在、約650名の会員で構成されており、年1回の全国大会のほかシンポジウムや研究会を随時企画し、地域活性のための人材の育成、学際的な探究、研究成果の地域への還元、研究ネットワークの構築を柱として、地域活性化の取り組みを支援する学術研究活動を目指している。

令和3年度は、本学会の第13回研究大会が令和3年9月10日から12日の2日間で開催され、本学からは地域教育実践研究センター副所長が参加し、本学の取り組みについて事例を発表した。

(2) 地域活性学会「第13回研究大会」の基本情報

テーマ	「地域活性とAuthenticity～過去・現在そして未来へ～」
日程	令和3年9月10日(金)～12日(日)
会場	オンライン開催

(3) 本学の発表内容

本学は、自治体・団体特別発表において、以下のテーマについて事例を発表した。

テーマ	自治体との包括的地域連携協定による連携事業（第2報）
<p>平成31年度に地域連携協定を結んだ水巻町との令和2年度の連携事業「避難所レイアウト」の事例を発表した。</p> <p>実施方法・実施内容については、水巻町は梅雨や台風の時期になると浸水被害が出ることから、町民の防災意識の向上を課題としており、活動の到達目標は「水巻町の指定避難所と避難について考える」としたことを示した。</p> <p>実践結果については、水巻町役場の職員によるWeb講義を受け、1年生から3年生までの各学年の人間生活学科の学生が課題に取り組んだ事例を示した。</p> <p>考察・今後の展開については連携事業としてもっとスピード感のある内容にすべく授業展開の改善および学生自身の防災意識の向上等の今後につながるいい結果が見られたことを示した。</p>	
※発表原稿はP35参照	



事例発表の様子

(4) 感想・今後の展開

本学発表後の意見交換については、今回は新型コロナウイルス感染症の影響によりオンライン開催であったこと、他団体の参加者は企業が多かったことから深い議論は得られなかった。しかし、今回発表した連携事業についての課題である授業展開のスピード感に関しては、学生のモチベーションの維持・向上等の観点から意見交換ができ、課題についての改善案の模索に繋がったと考える。

今後、本学が行っている他の地域連携の取り組みについても他団体・大学に周知するために地域教育実践研究センター運営委員を通して全学科から地域活性学会研究発表の参加者を募ることを検討している。研究発表を通して他学科の取り組みについての積極的な情報発信、意見交換に努めていくことを今後の目標とする。

第3章 学外実習・介護等体験および教員免許状更新講習等

I. 令和3年度 学外実習・介護等体験の実績

教育実習	保育実習	臨地実習	介護等体験	臨床実習
<ul style="list-style-type: none"> ・教員免許状の取得に際して、各学校における観察・参加・実習という教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに、課題を自覚する機会とすべく実習を行うもの。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士資格取得に際して、保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解し、観察や子どもとの関わりを通して、子どもへの理解を深めるために保育所、児童福祉施設等において実習を行うもの。 	<ul style="list-style-type: none"> ・管理栄養士免許取得に際して、実践活動の場での課題発見、解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識および技術の統合を図り、管理栄養士として具備すべき知識および技能を修得させることを目的として実習を行うもの。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校又は中学校の教員免許状を取得しようとする者を対象に、教員が個人の尊厳および社会連帯の理念に関する認識を深めることの重要性に鑑み、教員の資質向上および学校教育の一層の充実を図る観点から、特別支援学校2日間、社会福祉施設5日間の体験を行うもの。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学で学んだ知識・技術をもとに、医療・介護・福祉の現場における活動の見学や援助を通して、養護教諭としての必要なケアの視点や能力を養う。また、実習体験を通して個人を尊重した対象者とのかかわりの基本と健康や健康障害、発達段階や発達課題に対する支援能力を養うために実習を行うもの。

【九州女子大学】

(人数) 【九州女子短期大学】

(人数)

実習名	学科・専攻名	学校種別等	1年	2年	3年	4年
教育実習	人間生活学科	中学校 高等学校				17
	栄養学科	小学校				2
	人間発達学科 人間発達学専攻	幼稚園			56	44
		小学校			72	2
		特別支援学校				33
人間発達学科 人間基礎学専攻	中学校 高等学校				16	
保育実習	人間発達学科 人間発達学専攻	保育所		66	63	5
		児童養護施設等				55
臨地実習	栄養学科	福祉施設・ 保健所			75	
		小学校			73	
		病院			77	
介護等体験	人間生活学科				0	0
	人間発達学科 人間発達学専攻	特別支援学校 社会福祉施設		0	0	0
	人間発達学科 人間基礎学専攻				0	

実習名	学科・課程名	学校種別等	1年	2年
教育実習	子ども健康学科 幼稚園教諭養成課程	幼稚園		47
	子ども健康学科 養護教諭養成課程	小学校・ 中学校 高等学校		58
	専攻科 子ども健康学専攻	小学校・ 中学校 高等学校		29
保育実習	子ども健康学科 幼稚園教諭養成課程	保育所	74	66
		児童養護施設等	74	41
	子ども健康学科 養護教諭養成課程	保育所 児童養護施設等	41	37
臨床実習	子ども健康学科 養護教諭養成課程	保育所	41	25
		病院・福祉施設	4	78

II. 教員免許状更新講習の受講者推移(平成21年度～令和3年度)

教員免許状更新講習とは、その時々で求められる教員として必要な資質能力が保持されるよう、定期的に最新の知識技能を身につけることで、教員が自信と誇りを持って教壇に立ち、社会の尊敬と信頼を得ることを目指すため、現職教員、教員採用内定者、教員経験者等を対象に平成21年4月1日から導入されたものである。本学においては、平成21年度から教員免許状更新講習を実施しており、講座数および受講者数は以下のとおりである。

	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
講座数	15	16	20	20	17	17	19	21	19	20	18	17	16
受講者数	155	838	1,484	1,426	1,098	1,193	1,046	1,406	1,255	1,308	1,165	464	578

参考資料

I. 地域教育実践研究センターの各種委員会構成員

地域教育実践研究センター運営委員会		地域教育実践研究センター外部評価委員会	
大島 まな	地域教育実践研究センター 所長 人間科学部人間発達学科 教授	大島 まな	学内委員 地域教育実践研究センター 所長
西田真紀子	地域教育実践研究センター 副所長 家政学部人間生活学科 教授	西田真紀子	学内委員 地域教育実践研究センター 副所長
濱寄 朋子	教務部長 家政学部栄養学科 教授	室山 雄一	学外委員 芦屋町 地方創生推進係 係長
田中由美子	家政学部人間生活学科 教授	木下 颯太	学外委員 水巻町役場 総務課庶務係 主事
巴 美樹	家政学部栄養学科 教授	實松 秀男	学外委員 北九州商工会議所 産業振興部 部長
谷口 幹也	人間科学部人間発達学科 教授	成重 純一	学外委員 北九州市立高須小学校 校長
古木 誠彦	人間科学部人間発達学科 准教授	大塚 友江	学外委員 北九州市小倉社会事業協会 理事
安東 綾子	子ども健康学科 講師	桑原 正樹	学外委員 協同組合折尾商連 事務局長
田中 邦博	事務局長	巴 未樹	学内委員 家政学部人間栄養学科 教授
秋丸 風花	地域教育実践研究センター 主事補	谷口 幹也	学内委員 人間科学部人間発達学科 教授
		安東 綾子	学内委員 子ども健康学科 講師
		田中 邦博	事務局長

II. 地域教育実践研究センターの運営委員会等年間実績

月	学内委員会等	外部との会議等
4月		
5月		
6月		9日 第1回水巻町との連携会議
7月	15日 第1回地域教育実践研究センター運営委員会	7日 第1回折尾二三会との連携会議 14日 第1回北九州市との連携会議 15日 第1回芦屋町との連携会議
8月		
9月	30日 第2回地域教育実践研究センター運営委員会	
10月		
11月	25日 第1回地域教育実践研究センター外部評価委員会 30日 第3回地域教育実践研究センター運営委員会	
12月		
1月		
2月		
3月	10日 第2回地域教育実践研究センター外部評価委員会 17日 第4回地域教育実践研究センター運営委員会	7日 第2回水巻町との連携会議

Ⅲ. 地域教育実践研究センター外部評価委員会報告

令和3年度は、第1回地域教育実践研究センター外部評価委員会を令和3年11月26日に開催し、令和元年度の連携事業の実績を報告し、令和2年度の連携事業の進捗を共有・確認した。また、毎年3月に開催していた第2回の本委員会は、新型コロナウイルスの影響により開催を中止したが、アンケート評価を実施し、以下のとおり学外委員から意見を徴した。

学外委員	意見	
芦屋町	第1回委員会 (R3. 11. 25開催)	昨年度はコロナ禍で学生が直接現場に出向き、地域住方と関わるというのが難しい年度ではあったが、実現可能になったキャラバン隊、祖父母学級に関しては、大変好評で、引き続き機会があればお願いしたいとの声が上がった。
	第2回委員会 (R4. 3. 10開催)	連携事業の大部分が中止になってしまい、新型コロナウイルス感染症の影響により、住民が直接参画する活動ができないのが残念である。キャラバン隊や公民館講座などは大変好評なため引き続き継続して行いたい。
水巻町	第1回委員会 (R3. 11. 25開催)	コロナ禍で学生が直接避難所を見るのがなかなか難しい時期だったが、なんとか一年間取り組みを進められた。今年度も引き続き避難所レイアウトに取り組んでいるが、今後も今あるものをより良くしていきたい。
	第2回委員会 (R4. 3. 10開催)	避難所レイアウト作成事業を一年間取り組んできた。防災パネルについても7枚作成し、ワクチン接種会場など住民の目につくところに設置予定である。新型コロナウイルス感染症の影響により住民と学生が直接関わるイベントが開催できなかったが次年度は状況を見て開催したい。
北九州商工会議所	第1回委員会 (R3. 11. 25開催)	昨年のインターンシップは、オンラインも増えたが春季は学生派遣ができた。今年度もインターンシップを行う予定である。北九州市と連携して、地元就職に力を入れており、地元企業の認知度アップのための企業訪問バスツアーを考えている。昨年、今年は厳しい状況だが、コロナが落ち着いたら開催するのでぜひ参加してほしい。
	第2回委員会 (R4. 3. 10開催)	これまで中止が続いていたインターンシップだが、今年度は対面のインターンシップをオンライン開催に変更するなどの対応を取りながら実施している。来年度も引き続きインターンシップを行っていくのでぜひ参加してほしい。
北九州市立小学校	第1回委員会 (R3. 11. 25開催)	昨年度はコロナ禍で受入れ体制が整わず、グリーンティーチャーの受け入れが出来なかった。学びの場として貴重な機会が失われたとおもい大変残念だった。11月からはグリーンティーチャーの受入れを行う予定になっており、今後も感染拡大が落ち着いたら、派遣をお願いしたい。
	第2回委員会 (R4. 3. 10開催)	1月中旬以降、グリーンティーチャーの受入が中止になってしまった。小学校内でも学級閉鎖等の対応があり大変であった。来年度も教育委員会と相談しながら新型コロナウイルス感染症の対応を考えていくので引き続きグリーンティーチャーの参加をお願いしたい。
北九州市 小倉社会事業協会	第1回委員会 (R3. 11. 25開催)	研修などはリモートが増えている。コロナ禍でボランティアやグリーンティーチャーは受け入れ先の体制が整わないことがあり、受け入れができず残念だった。保育園でもこれまでにない取り組みとして行事のリモート配信を行っている。このようなものを活用して現場の実態を知るチャンスにしてほしい。
	第2回委員会 (R4. 3. 10開催)	保育園でも休園や学級閉鎖が相次いだ。なかなか学生を受け入れられない状況が続き、学生たちにどれくらい現場の実態を見せることができたのか気がかりである。来年度はさらに協力しながら保育園の現状や実態を学生に伝えていきたい。
協同組合折尾商連	第1回委員会 (R3. 11. 25開催)	九女わくわくパークは学生が将来社会に出たときに役に立ついい経験だと考えている。このような催しが続くのは素晴らしい事なのでぜひ今後も継続してほしい。
	第2回委員会 (R4. 3. 10開催)	今年度は折尾まつりの3度目の中止が決定し、大学生実行委員会の中に折尾まつりを経験している学生がいなくなってしまったことや、実行委員会の高齢化が問題となっている。地域のイベントの継続のためにこれからも力を貸してほしい。

IV. 協定先一覧

本学は以下のとおり、自治体、企業、大学、および団体等と協定を締結している。これらの協定に基づき、外部組織と様々な連携事業に取り組んでいる。

協定先	協定名	締結日
北九州市	北九州市放課後児童クラブの振興に関する連携協定	平成25年9月1日
芦屋町	本学と芦屋町との包括的地域連携に関する協定	平成28年3月29日
北九州商工会議所	本学と北九州商工会議所との連携に関する協定	平成28年6月7日
水巻町	本学と水巻町との包括的地域連携に関する協定	平成31年4月17日
青森県立保健大学	青森県立保健大学と九州女子大学におけるベトナム国ナムディン看護大学及び国立栄養研究所との交流活動に係る連携・協力に関する協定	令和元年7月31日
味の素株式会社九州支社	本学と味の素株式会社の包括的連携に関する協定	令和2年3月3日
不二製油株式会社	本学と不二製油株式会社の包括的連携に関する協定	令和2年4月1日
株式会社えん・コミュニケーションズ	本学と株式会社えん・コミュニケーションズの包括的連携に関する協定	令和2年8月3日
折尾二三会	本学と折尾二三会の包括的連携に関する協定	令和2年8月3日

V. 地域教育事業一覧(平成27年度～令和2年度)

本学の地域教育事業の実態を分析するため、各学科・専攻等で地域に学生を派遣している事業について、カリキュラム内とカリキュラム外の派遣事業、および派遣人数等を以下のとおり調査してきた。

事業内容		H29年度		H30年度		R1年度		R2年度	
		実数	延べ数	実数	延べ数	実数	延べ数	実数	延べ数
人間生活学科	カリキュラム内(学外実習) 教育実習・介護等体験 ※括弧内は特例措置	59	59	51	51	40	40	44 (20)	44 (20)
	カリキュラム内(一般科目) 地域生活学演習	205	205	277	277	243	243	273	273
	カリキュラム外 学童クラブ等	134	499	102	625	160	891	89	263
計		398	763	430	953	443	1,174	406	580
栄養学科	カリキュラム内(学外実習) 栄養教育実習・臨地実習等	257	257	247	247	251	251	191	191
	カリキュラム外 水巻町との連携事業	28	39	15	21	40	40	23	25
計		285	296	262	268	291	291	214	216
人間発達学科 (人間発達学専攻)	カリキュラム内(学外実習) 初等教育実習・保育所実習 介護等体験等 ※括弧内は特例措置	553	553	464	464	581	581	430 (70)	432 (70)
	カリキュラム内(一般科目) スキルアップ講座 卒業研究演習等	536	864	467	773	430	736	55	55
	カリキュラム外 グリーンティーチャー 学習ボランティア等	407	3,886	434	4,302	402	3,429	10	10
計		1,496	5,303	1,365	5,539	1,413	4,746	495	497
人間発達学科 (人間基礎学専攻)	カリキュラム内(学外実習) 中等教育実習・介護等体験等 ※括弧内は特例措置	77	77	74	74	69	69	65 (18)	65 (18)
	カリキュラム内(一般科目) 卒業研究演習・図書館概論等	120	126	136	136	153	135	17	12
	カリキュラム外 図書館ボランティア 書道教室	208	424	212	603	167	478	52	149
計		405	627	422	813	389	682	134	226
子ども健康学科	カリキュラム内(学外実習) 教育実習(幼稚園) 養護実習・保育所実習等	826	1,034	729	937	677	849	595	614
	カリキュラム外 キャラバン隊 ボランティア活動等	336	482	305	474	261	387	31	67
計		1,162	1,516	1,034	1,411	938	1,236	626	681
子ども健康学専攻	カリキュラム内(学外実習) 養護特別実習	28	28	16	16	22	22	14	14
	カリキュラム外 スクールヘルパー	25	150	3	3	14	14	—	—
計		53	178	19	19	36	36	14	14
合計		3,891	8,775	3,599	9,070	3,525	8,184	1,889	2,214

VI. 講師派遣実績一覧

No.	所属	派遣者	派遣内容	派遣日	依頼組織
1	人間科学部 人間発達学科	今津 尚子	よみきかせボランティア養成講座	R3. 6. 19	北九州市立塔野市民センター
2	子ども健康学科	宮嶋 晴子	令和3年度児童虐待防止研修会	R3. 5. 10	飯塚市役所
3	人間科学部 人間発達学科	大島 まな	令和3年度前期「北九州市民カレッジ」	R3. 7. 13	北九州市立生涯学習総合センター
4	人間科学部 人間発達学科	古木 誠彦	北九州市立年長者研修大学校穴生学舎研修	R3. 8. 30、R3. 11. 15	九州市立年長者研修大学校穴生校舎
5	子ども健康学科	菊池由紀子	子育て応援サロン	R3. 7. 24	社会福祉法人 粕屋町社会福祉協議会
6	人間科学部 人間発達学科	大島 まな	令和3年度男女共同参画啓発事業講演会	R3. 6. 23	北九州市立男女共同参画センター・ムーブ
7	共通教育センター	樫澤 葉子	令和3年度えーるピアカレッジ	R3. 12. 4	(公財)久留米市生きがい健康づくり財団
8	家政学部 栄養学科	三浦公志郎	管理栄養士のための基礎医学講座	R3. 7. 17、R4. 2. 19	(株)日本医療企画九州支社
9	人間科学部 人間発達学科	矢崎 美香	令和3年度「目録システム書誌作成研修」	R3. 8. 23、R3. 9. 7、R3. 9. 14、R3. 11. 19	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構
10	人間科学部 人間発達学科	大島 まな	令和3年度市民センター館長等研修	R23. 7. 7	北九州市市民文化スポーツ局
11	人間科学部 人間発達学科	大島 まな	令和3年度放課後指導支援員認定資格研修	R3. 9. 20、R. 9. 26、R3. 12. 5	長崎県学童保育連絡協議会
12	人間科学部 人間発達学科	今津 尚子	北九州市立年長者研修大学校周望学舎研修	R3. 11. 25	北九州市立年長者研修大学校周望学舎
13	子ども健康学科	松本 禎明	令和3年度福岡県保育士等キャリアアップ研修	R3. 10. 1、R3. 10. 17、R3. 11. 13、R3. 12. 3	(一財)保健福祉振興財団
14	人間科学部 人間発達学科	今津 尚子	令和3年度子ども支援ボランティア養成講座	R3. 9. 8	宗像市役所
15	人間科学部 人間発達学科	大島 まな	第16回ひとづくり・地域づくりフォーラムin山口	R4. 2. 20	公益財団法人山口県人づくり財団
16	家政学部 栄養学科	巴 美樹	令和3年度北九州市聴覚障害者生活教室	R3. 9. 1	特定非営利活動法人北九州市聴覚障害者協会
17	家政学部 栄養学科	山本 亜衣	令和3年度北九州市聴覚障害者生活教室	R3. 9. 1	特定非営利活動法人北九州市聴覚障害者協会
18	家政学部 栄養学科	巴 美樹	FOOD STYLE Kyushu 動物性たん白セミナー	R3. 11. 10	(一社)日本植物蛋白食品協会
19	人間科学部 人間発達学科	友納 艶花	令和3年度子育て支援員養成研修	R4. 2. 8	社会福祉法人北九州市福祉事業団北九州市社会福祉研究所
20	子ども健康学科	宮嶋 晴子	令和3年度家庭教育支援者リーダー等養成講座	R3. 11. 5、R4. 2. 25	佐賀県立生涯学習センター
21	人間科学部 人間発達学科	宮本 和典	プログラミング教育研修	R3. 10. 18	北九州市立教育センター
22	人間科学部 人間発達学科	今津 尚子	2021八幡東区男女共同参画地域フォーラム	R3. 11. 18	八幡東区女性団体連絡会議
23	子ども健康学科	鄭 英美	2021江東区男女共同参画フォーラム	R3. 11. 14	女子スポドットコム
24	人間科学部 人間発達学科	城 佳世	コモン・クラシック講座	R4. 1. 22	公益財団法人飯塚市教育文化振興事業団
25	子ども健康学科	宮嶋 晴子	令和3年度宮崎県栄養士研修会	R4. 2. 20	公益財団法人宮崎県栄養会

VII. 行政の審議会等委員委嘱実績一覧

No.	所属	氏名	委嘱内容	就任期間	依頼組織
1	家政学部 人間生活学科	佐久間 治	北九州市景観審議会委員	R3. 4. 1～R5. 3. 31	北九州市
2	家政学部 栄養学科	巴 美樹	北九州市保健所運営協議会委員	R3. 7. 1～R5. 6. 30	北九州市
3	子ども健康学科	宮嶋 晴子	飯塚市3児童虐待死亡事例検証委員会委員	R3. 6. 3～R4. 1 (予定)	飯塚市
4	家政学部 栄養学科	濱崎 朋子	北九州市口腔保健推進会議委員	R2. 8～R5. 3. 31	北九州市
5	人間科学部 人間発達学科	大島 まな	北九州市SDGs協議会委員	R2. 8. 3～R4. 7. 31	北九州市
6	家政学部 栄養学科	巴 美樹	芦屋町ブランド金賞選定審査会	R2. 8. 6～R4. 3. 31	芦屋町
7	人間科学部 人間発達学科	大島 まな	第8期北九州市人権施策審議会委員	R3. 7～R5. 7 (予定)	北九州市
8	人間科学部 人間発達学科	大島 まな	住民参画推進会議委員	H29. 8. 1～R6. 9. 29	芦屋町
9	人間科学部 人間発達学科	村上 太郎	北九州市子ども・子育て会議委員	R3. 7～R5. 7	北九州市
10	人間科学部 人間発達学科	大島 まな	北九州市小中一貫・連携教育検討会議委員	R2. 10. 23～R4. 3. 31	北九州市教育委員会
11	人間科学部 人間発達学科	大島 まな	北九州市社会福祉協議会評議員委員	H30. 3. 14～R3. 6	北九州市
12	人間科学部 人間発達学科	矢崎 美香	北九州市子ども読書活動推進会議委員	R3. 8. 1～R5. 7. 31	北九州市教育委員会
13	家政学部 人間生活学科	大島 まな	築上町新しい時代の学びの環境整備検討協議会委員	R3. 7～R4. 3. 31	築上町教育委員会
14	人間科学部 人間発達学科	大島 まな	東アジア文化都市2020北九州実行委員会委員	H31. 3. 27～R3. 5	福岡県
15	人間科学部 人間発達学科	大島 まな	第7期北九州市人権施策審議会委員	R1. 7下旬～R3. 7	北九州市
16	家政学部 栄養学科	巴 美樹	北九州市保健所運営協議会委員	R1. 7. 1～R3. 6. 30	北九州市
17	家政学部 栄養学科	濱崎 朋子	北九州市国民健康保険運営協議会委員	R1. 9. 1～R4. 8. 31	北九州市
18	人間科学部 人間発達学科	大島 まな	福岡県総合計画審議会委員	R1. 9～R4. 9	福岡県
19	人間科学部 人間発達学科	矢崎 美香	北九州市子ども読書活動推進会議第Ⅲ期委員	R1. 8. 4～R3. 7. 31	北九州市教育委員会
20	人間科学部 人間発達学科	村上 太郎	北九州市子ども・子育て会議委員	R1. 7. 16～R3. 7. 15	北九州市
21	家政学部 人間生活学科	田中由美子	広島県消費生活審議会委員	R3. 10. 16～R5. 10. 15	広島県
22	人間科学部 人間発達学科	大島 まな	ムーブ運営協議会委員	R3. 11. 1～R5. 10. 31	北九州市
23	人間科学部 人間発達学科	大島 まな	福岡県社会教育委員及び福岡県教育振興審議会委員	R2. 1～R3. 12	福岡県教育委員会
24	家政学部 栄養学科	巴 美樹	北九州市食品衛生懇話会会員委員	R2. 4. 1～R4. 3. 31	北九州市
25	人間科学部 人間発達学科	大島 まな	北九州市スーパーシティ構想参画事業者審査会審査委員	承諾日～R3. 10. 31	北九州市
26	人間科学部 人間発達学科	城 佳世	北九州市文化財保護審議会	R3. 11. 1～R5. 10. 31	北九州市
27	子ども健康学科	矢野 洋子	芦屋町公の施設指定管理者選定委員会委員	R3. 11. 1～答申日	芦屋町
28	家政学部 人間生活学科	田中由美子	2021北九州SDGs未来都市アワードの実施に係る選考委員	R3. 10. 15～R4. 3. 31	北九州市
29	人間科学部 人間発達学科	大島 まな	親子ふれあいルーム運営業者選考委員会委員	R3. 12～R4. 3. 31	北九州市

自治体との包括連携協定による連携事業（第2報）
 - 水巻町における「九女型人材育成プログラム」の実践

西田真紀子（九州女子大学）

Keyword： 地域連携、課題解決、実践教育

【背景】

九州女子大学・九州女子短期大学（表1）では、「地域に根ざした実践教育を展開する大学」として、平成27（2015）年6月1日に地域教育実践研究センターを設置し、「学生の質保証の強化」、「大学の教育・研究機能の活用」および「地域社会との共生」の3本柱を軸として、本学の地域貢献（型）による大学創りに取り組んでいる（図1）。



図1 地域教育実践研究センターの役割

九州女子大学家政学部人間生活学科（以下「本学科」）は、定員40名の小規模学科である。本学科では、地域教育実践研究センターの取り組みと連携したPBL型授業を必修科目として開講している。地域生活学演習Ⅰ（1年）→地域生活学演習Ⅱ、Ⅲ（2年）→地域生活学演習Ⅳ、Ⅴ（3年）→地域生活学演習Ⅵ、Ⅶ（4年）という連続した必修科目である。

地域貢献には「教員が中心となって地域に関わる場合」と「学生の学修の場を兼ねて地域に関わる場合」があるが、この一連の必修科目の中で地域連携と実践教育のバランスを模索している。

現在のカリキュラムにおいて、地域生活学演習Ⅰで九女型人材育成プログラムオブキャンパス研修を行い、チームでの議論、意見交換の方法、役割分担の大切さなどを体験し、2年次以降に行う実際の地域活動にスムーズに取り組めるようにしている。

オブキャンパス研修のテーマは連携協定を結んでいる地域を題材とし、テーマに関する資料を2年生が収集・提示する。1年生はジグソー学習で資料を読み込み、KJ法とブレインストーミングを用いて資料からの課題発見、課題解

決に向けての提案を作成しプレゼンする。

2年次から行う実際の地域活動では、近隣の学童保育ボランティアや地域活性化への取り組みなど様々な活動場所の中から学生らの希望に応じて選択し、その活動において、大学生としてどう立ち振る舞うか、活動メンバーの中でどう役割分担を行うかなど関わり方を考え行動する授業と位置付けている。1つの活動にあまり大人数で関わらないようにするために、なるべくたくさんの活動を準備し、自分の役割が与えられるよう工夫している。

第1報では、本学の近隣地区であり平成28（2016）年に地域連携協定を結んだ福岡県速賀郡芦屋町をフィールドとし、本学科において行っている九女型人材プログラムの実践を中心とした自治体と学生による連携事業に関する事例を報告した。

表1 九州女子大学・同短期大学の基本情報

		学部・学科(専攻)	取得可能免許・資格(抜粋)
九州女子大学	家政学部	人間生活学科	中・高教諭一種免許(家庭) 二級造園士受験資格
		栄養学科	栄養士免許 管理栄養士(国家試験)受験資格
	人間生活学科	人間発達学科 (人間発達学専攻)	幼稚園教諭一種免許 小学校教諭一種免許 特別支援学校一種免許 保育士
		人間発達学科 (人間基礎学専攻)	中学校教諭一種免許(国語) 高等学校教諭一種免許(国語)「普通」 図書館司書
			1,263名
	同短期大学	子ども健康学科 専攻科	幼稚園教諭二種免許 養護教諭二種免許 保育士 養護教諭一種免許
	279名		

その後、地域との連携事業を必修科目で行うにあたり、「学生のモチベーションの維持」と「時間の確保」の2つの課題が浮上した。地域貢献やボランティアなどに関心を全く示したことがない学生や、指示が少なく主体性を求められる活動に消極的な学生も少なからずいる中、学生らがかかわる活動が、地域にとって有意義な結果をもたらし、且つ、学生にとって効果的な社会人基礎力の醸成となるような組織づくりと授業計画を模索してきた。地域活動を行うにあたり、その地域活動の意義や目的などの理解が不十分のまま取り組んだり、課題発見や情報発信のスキルがない状態で進めたりすると、参加することのみが目的となり、

主体性を育む効果が薄い。また、適切な議論の進め方を経験しないまま活動を行うと、役割分担が上手くできない傾向にある。

今回は、新たに平成 31 (2019) 年に地域連携協定を結んだ福岡県遠賀郡水巻町をフィールドとして九女型人材育成プログラムを実践した連携事業について報告し、単位化した授業の中での実践教育の効果と地域連携のあり方について検証した。

【実践方法・実践内容】

水巻町は北九州市の西に位置し、一級河川・遠賀川下流に沿った縦長の町である (図 2)。梅雨や台風の時期になると浸水被害が起きることから、住民の防災意識の向上を1つの課題としている。



図2 本学と自治体の所在地

本学科では、水巻町の依頼を受け、令和 2 (2020) 年度地域活動の 1 つとして始めた。活動の到達目標は「水巻町の『指定避難所のレイアウト』と『住民の避難』について考える」とした。活動人数は 3 年生 5 名、2 年生 14 名、1 年生 42 名であった。それぞれの分担として、3 年生は「レイアウト案の取りまとめと作成」、2 年生は「指定避難所の課題と分析、レイアウト案の構想」および「住民避難に関する資料収集」、1 年生は「水巻町住民の避難についての提案作成」とした。また、役割として、3 年生は 2 年生グループのリーダー、2 年生は 1 年生のファシリテーターを設定した。

活動期間は令和 2 (2020) 年度前期および後期 (4 月～2 月) であったが、福岡県は 4 月 7 日に緊急事態宣言の対象区域になり、新型コロナウイルス感染症対策として大学内の講義、演習、実験、実習科目のすべてが遠隔授業で行われることとなった。7 月からの対面授業が決定した 6 月 15 日にスタート日を設定し、水巻町役場の職員 (以下役場職員) による講義を Web 開催した。

【実践結果】

Web 講義は、90 分で開催され、2、3 年生計 19 名が受講した。役場職員からは、市町村が防災・減災に取り組む

意義や近年の水巻町の取り組みが紹介された。また、長期的に避難所を解説・運営したことがないこと、職員のマンパワーが十分でないこと等が課題として提示された。

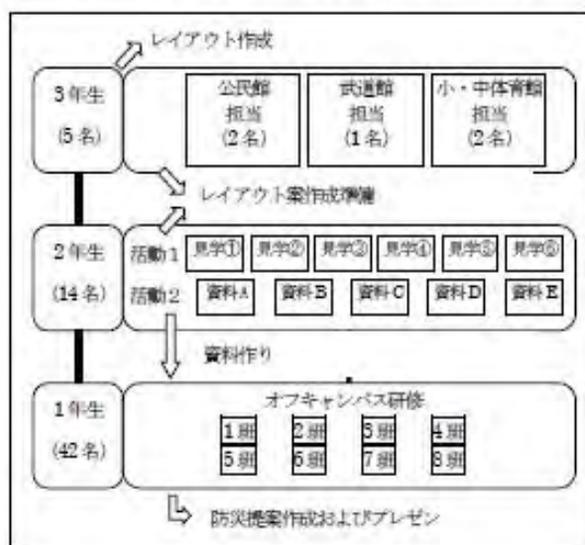


図3 水巻防災に関する活動の状況



写真1 Web 講義

その後の活動スケジュールを表 2 に示す。

表 2 令和 2 年度の大学及び活動スケジュール

日時	大学の状況	活動内容
4月	入学式中止・大学閉鎖	
5月	授業開始断念・遠隔授業開始	沿革による活動場所は位置決め
6月	7月からの対面授業準備	6/15 遠隔による講演
7月	対面授業開始	7/27～ 指定避難所視察開始
8月	演習科目特別編成あり	
9月	演習科目特別編成あり 中旬：後期開始	～9/1 指定避難所視察終了
10月		10/15 指定避難所視察報告会
11月		
12月		1年生オフキャンパス研修・発表会
1月	緊急事態宣言発令 成り順に終了	避難所レイアウト途中経過提出

提示された課題を具体的に知るために、2 年生は 6 つのグループに分かれ、町の指定避難所 17 ヶ所を役場職員の案内のもと視察した。視察後、それぞれの指定避難所運営時の課題とレイアウト構想をグループ単位でまとめ、10 月に報告会を行った。その結果、①「小・中学校体育

館)②「武道館・体育センターなど運動施設」③「公民館・福祉センターなどの一般交流施設」の3つの施設群に分類し、課題やレイアウト構成をまとめ(表3)、今後のレイアウト及び、指定避難所にあるもの、あるべきものおよび避難所へ持参すべきもののリストについて検討していく方向性を確認し、2年生を3つのグループに改編した。

3年生は、それぞれの2年生グループに分担して入り、リーダーとして2年生の提案を聞き取りながらまとめ、1つのレイアウト案を作成した。レイアウト案をまとめるまでの検討結果およびレイアウト案の図を役場職員とメールおよび電話でやり取りしながら、1月に今年度の最終報告を紙面にて行った。



写真2.3
指定避難所視察の様子



表3 学生が提示した報告書

	課題	レイアウト案
公民館	<ul style="list-style-type: none"> 床が固いため、マット等が必要 温度調節(冷暖房管理) どこに何があるか分かりにくい コンセントが少ないため、延長コードが多数必要 大ホールは音が響きやすい ホールと会議室があるので使い分けが可能 トイレの定期的な点検・掃除が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い年代に分かりやすいレイアウト 狭い部屋を延焼、高齢者の方等に分けて使用
小・中学校体育館	<ul style="list-style-type: none"> 入口にメモーフが無い 入口が狭いことから避難する可能性がある、別の入口を解放する必要あり 温度調節(冷暖房管理) 日差しが強いため、カーテンが必要 床が固いため、マット等が必要 プライバシーを確保する場所の区切りが必要 換気がしにくいため、サーキュレーターが必要 コンセントが少ないため、延長コードが多数必要 定期的な点検・掃除が必要(トイレ環境悪い) トイレの清潔を保つアルコールや掃除道具が必要 校舎内のトイレも開放したほうが良い 体育館の場所がわかりにくいため、目印が必要 窓から川が見えるため怖いと感じる、できれば他の避難所から開放 	<ul style="list-style-type: none"> トイレ付近は高齢者等動きやすい人 体調不良を専用スペース 駐車場が広いので、車中泊も視野に入れる
体育館・武道館	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者のために腰かけて待機する場所が必要 夏は換気のためにも扇風機 プライバシーを確保する場所の区切りが必要 響きやすいスペースあり 床が固いため、マット等が必要 日差しが強いため、カーテンが必要 トイレの清潔を保つアルコールや掃除道具が必要 定期的な点検・掃除が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ステージは物置き 椅子は、足腰の悪い人用 区切りが必要 快適を求める

2年生は、役場職員による講義と指定避難所視察での気づきをもとに、1年生のオフキャンパスのテーマを「水巻町の防災を考える～避難者の立場から～」と決定し、テーマに沿った資料収集を行った。収集した資料を「A:コロナ禍での避難」「B:災害事例」「C:災害の備え」「D:避難所に関する情報」「E:避難タイミング」の5つのテーマに分類し、ジグソー学習の資料としてまとめた。また、研修中は、1年生チームをファシリテートした。

1年生(42名)は、約5人を1チームとし、終日利用して、A~Eの資料を用い、課題発見、解決提案をプレゼンテーション資料にまとめた。発表時間は7分とし、学科内教員および他学科教員、資料を作成した2年生、地域教育実践研究センターの教職員、役場職員(3名)の前で発表を行った。

【考察・今後の展開】

今回は、17ヶ所の指定避難所の見学後に作成した課題

および近年指定避難所として開放した実績のある公民館のレイアウト案作成の途中経過について水巻町役場に報告した(図4)。これは、目標の報告内容に達成していない。連携事業ではもっとスピード感のある授業展開とし、余裕をもって目標とした報告内容を期日内に仕上げることができる内容にする修正が望まれる。1年生のオフキャンパス研修のテーマとして水巻防災を取り上げたことは、学生の防災意識が向上したこと、近隣地域の防災に対する意識を知ることができたこと、役場職員が、学生が防災に関してどのようにとらえているのかを知ることができたことが、今後につながる良い結果となったと考える。

コロナ禍で例年より活動量が少なくなりましたが、一定の報告が評価され、次年度も水巻町と新2、3年生が防災の観点から連携活動を行うことが決定した。

【引用・参考文献】

- 九州女子大学・九州女子短期大学地域教育実践研究センター、令和2年度地域連携事業報告書
- 澤田小百合, 2018, 自治体との包括的地域連携協定による連携事業 - 芦屋町における「九女型人材育成プログラム」の実践, 第10回大会要論文集, p347-348
- 西田真紀子, 大学生の学外活動による学習成果 - 九州女子大学人間生活学科の授業内における地域活動の効果 -, 第10回大会要論文集, p349-350
- 澤田小百合, 2019, 地域における実践教育の展開とSDGsの推進 - 大学と自治体との組織的な連携の実践, 地域活性化学会第11回大会論文集, p357 - 358



写真45 7分間のプレゼンと水巻町総務課職員による講評

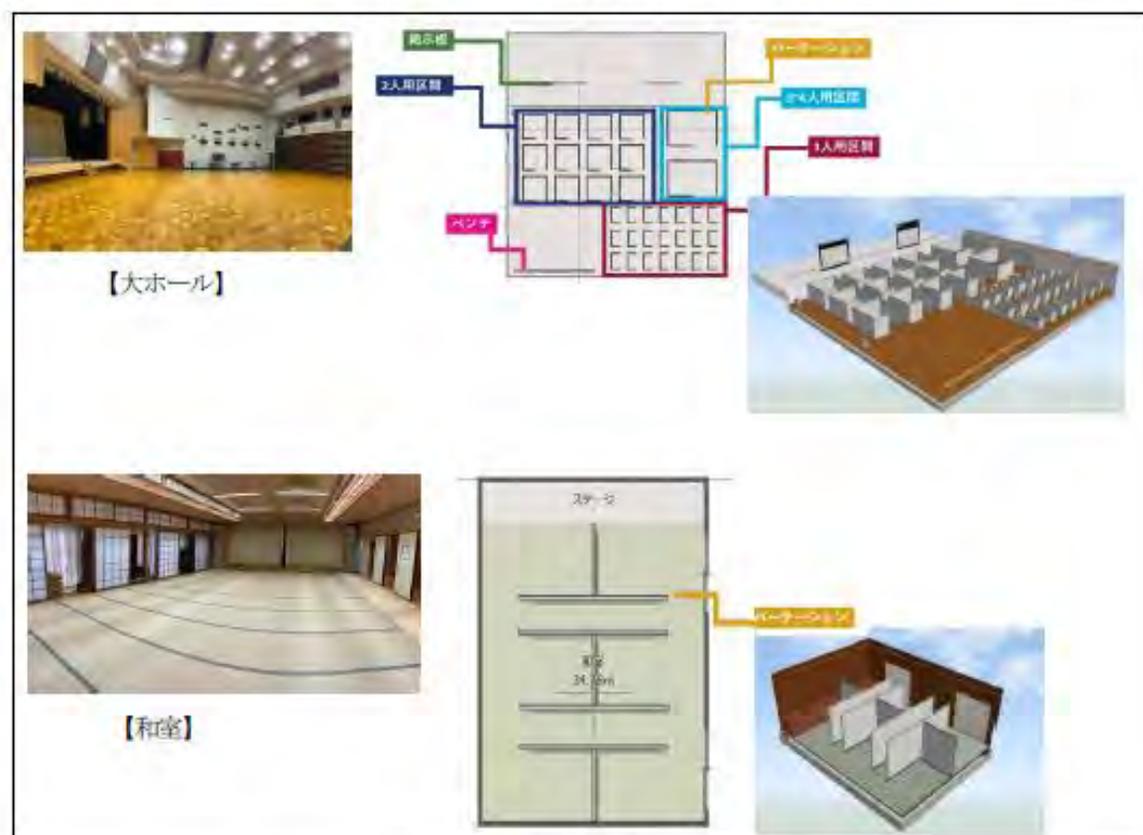


図4 公民館の実際と学生が考えたレイアウト原案

編集後記

本誌は、令和3年度に九州女子大学・九州女子短期大学、および地域教育実践研究センターで実施した地域連携事業を皆様にご報告するため、発行いたしました。

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、計画していた事業の幾つかを中止せざるを得ませんでした。事業によっては、実施時期の見直し、規模の縮小、遠隔等で対応しつつ実施することができました。

特に、公開講座、製品開発等に関する取り組みについて自治体および企業等との連携活動を継続し、本学の教育・研究機能を活用した地域貢献に努めました。また、組織的に連携事業の客観性を担保しつつ、一層の改善に資するため、外部評価委員会を実施することで、外部の組織、地域の方々のご意見等を頂戴することで自己点検・評価活動へ繋げました。

本誌を契機として、皆様と新たな連携事業を実施できることを期待するとともに、本学の地域連携活動、および地域貢献活動のさらなる発展を目指してまいります。

地域教育実践研究センター 所長 大島 まな

令和3年度 地域連携事業報告書

発行：令和4年6月1日

編集：学校法人福原学園 九州女子大学・九州女子短期大学
地域教育実践研究センター

〒807-8586 北九州市八幡西区自由ヶ丘1-1
Tel：093-693-3134 Fax：093-603-6453
E-mail：chiiki-c@fains.jp

